

283-65



1200501362742

283

65

行幸記念誌

第七高等學校造士館編



始



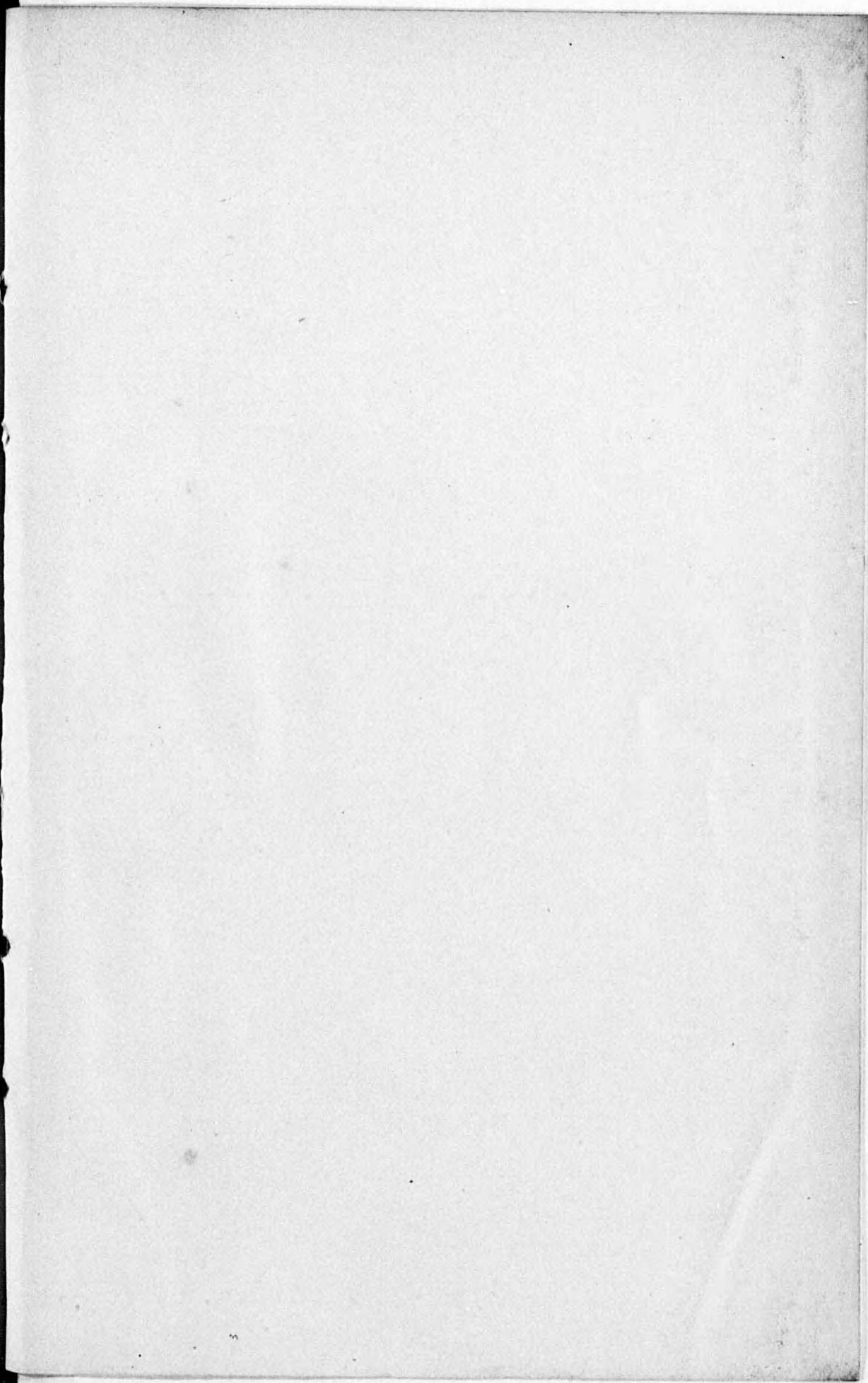
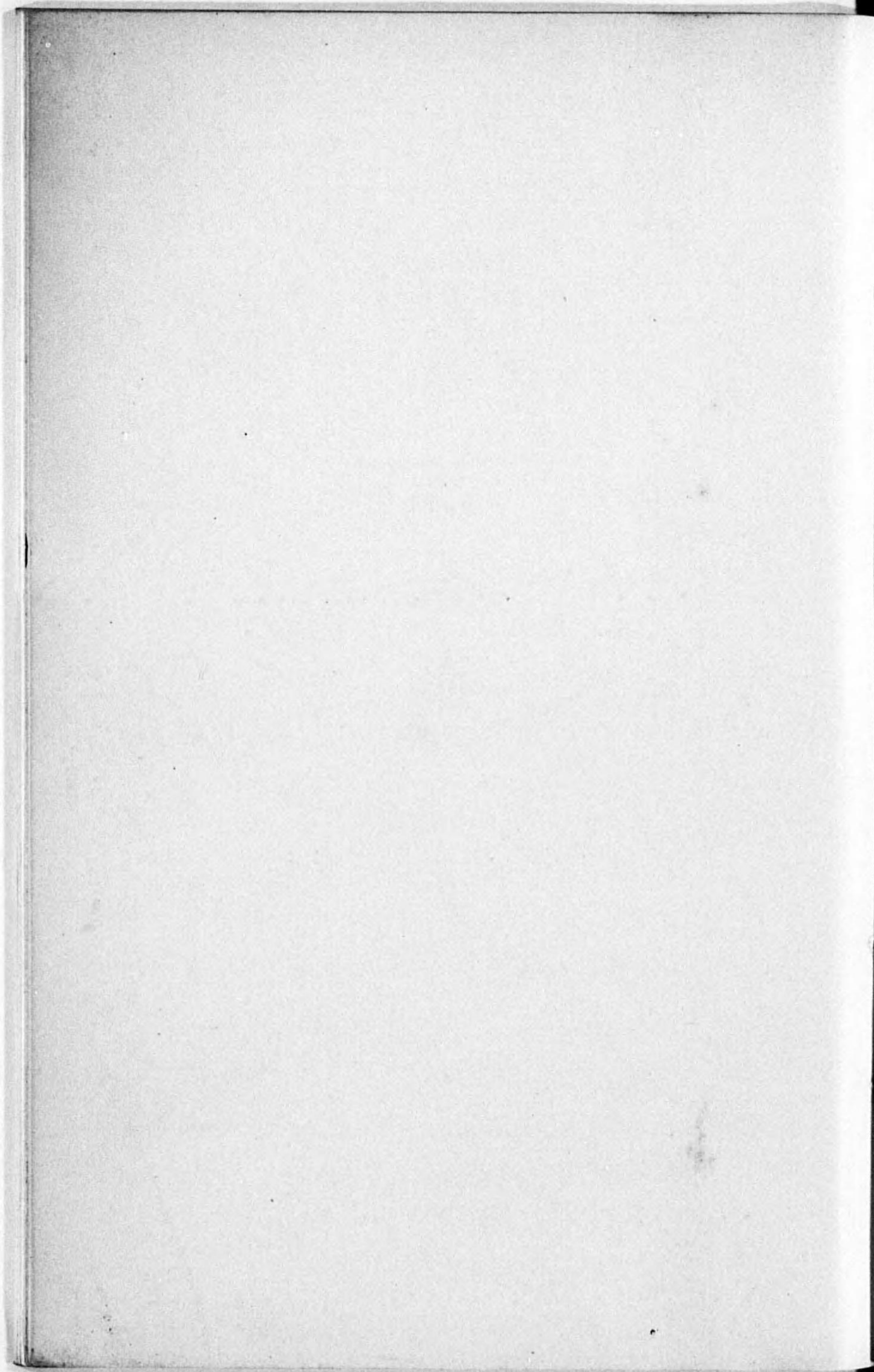


283  
65

行幸記念誌

納本







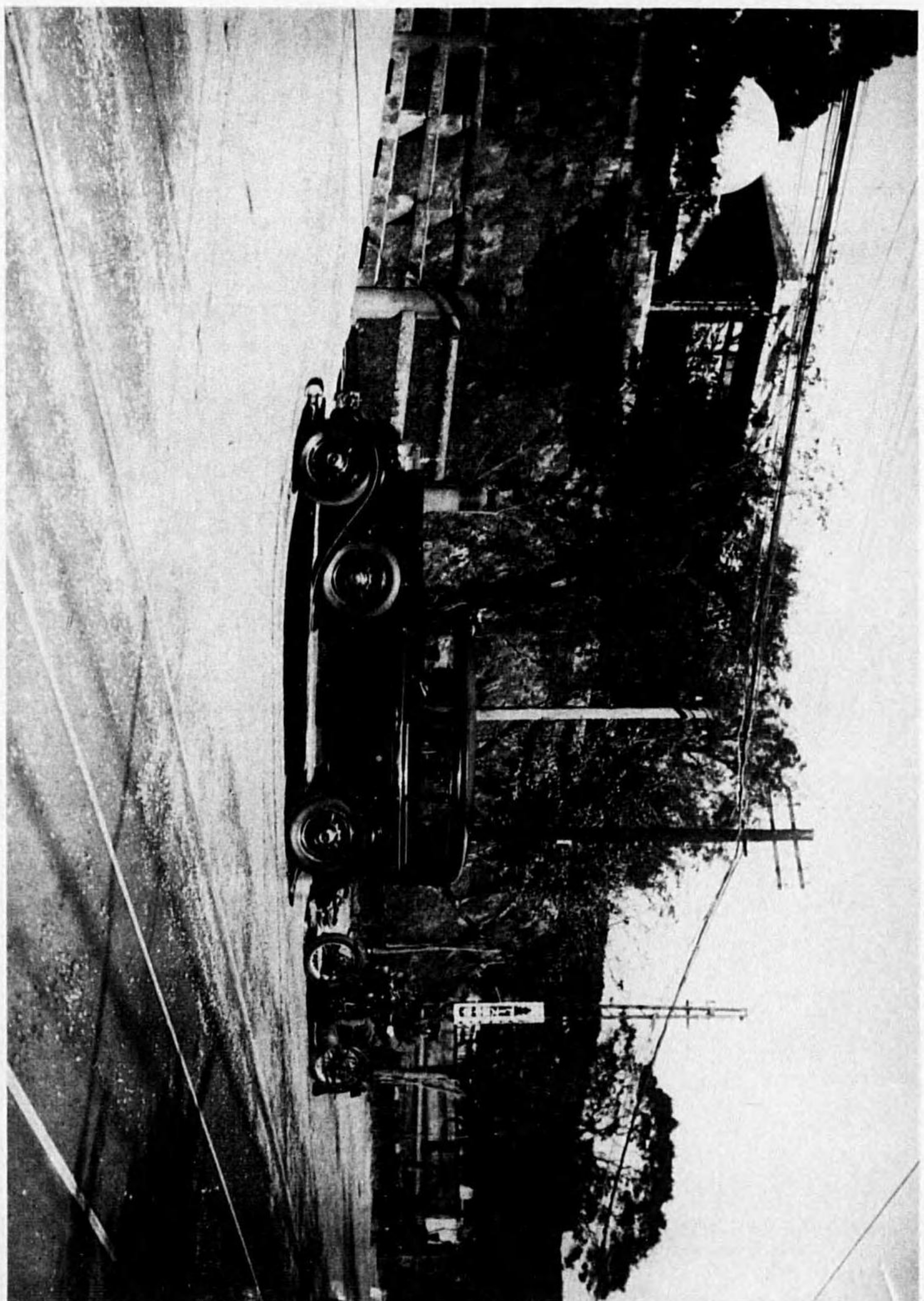


行幸記念誌

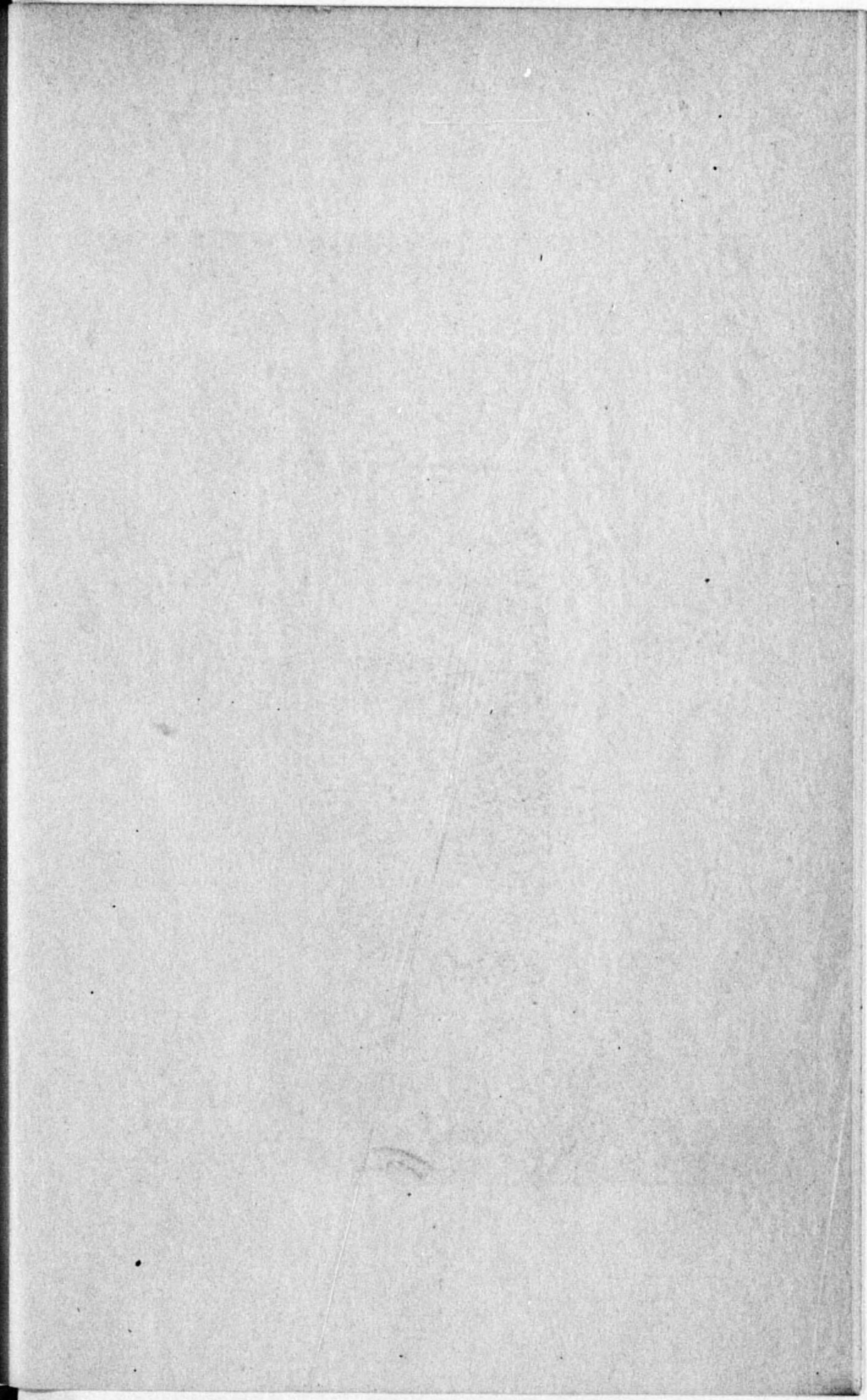
第七高等學校造士館





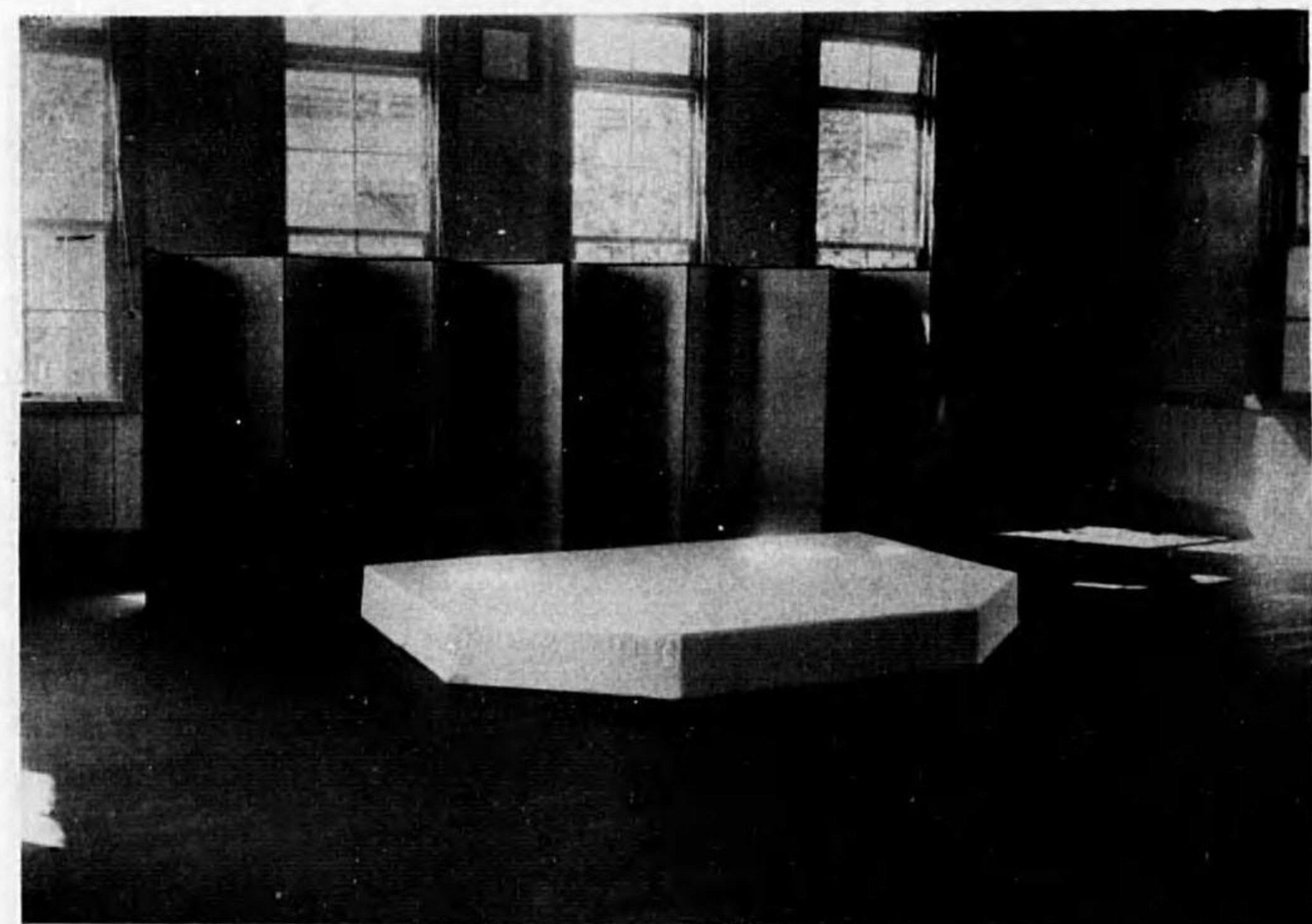
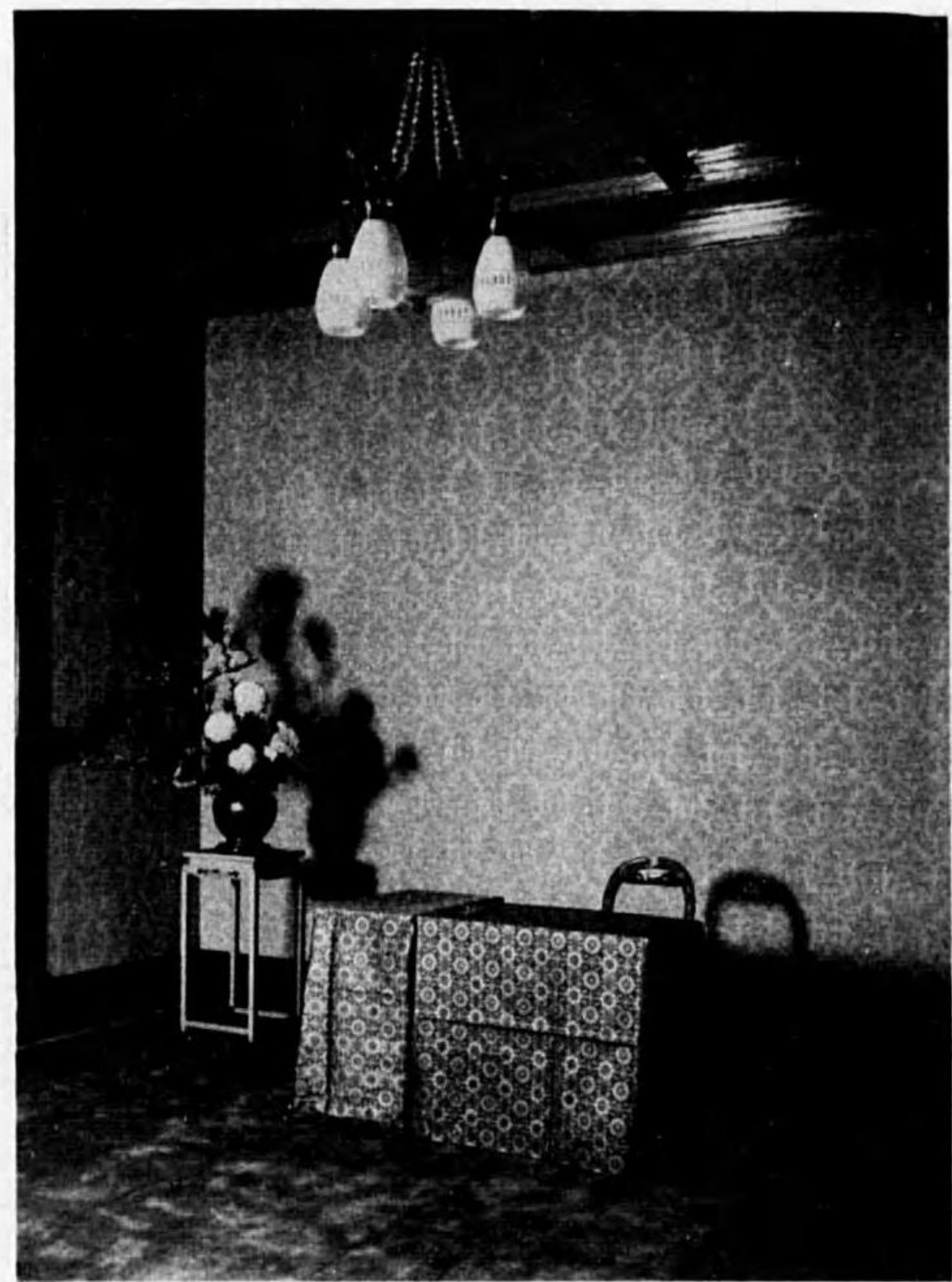


薄 函 の 御 臨



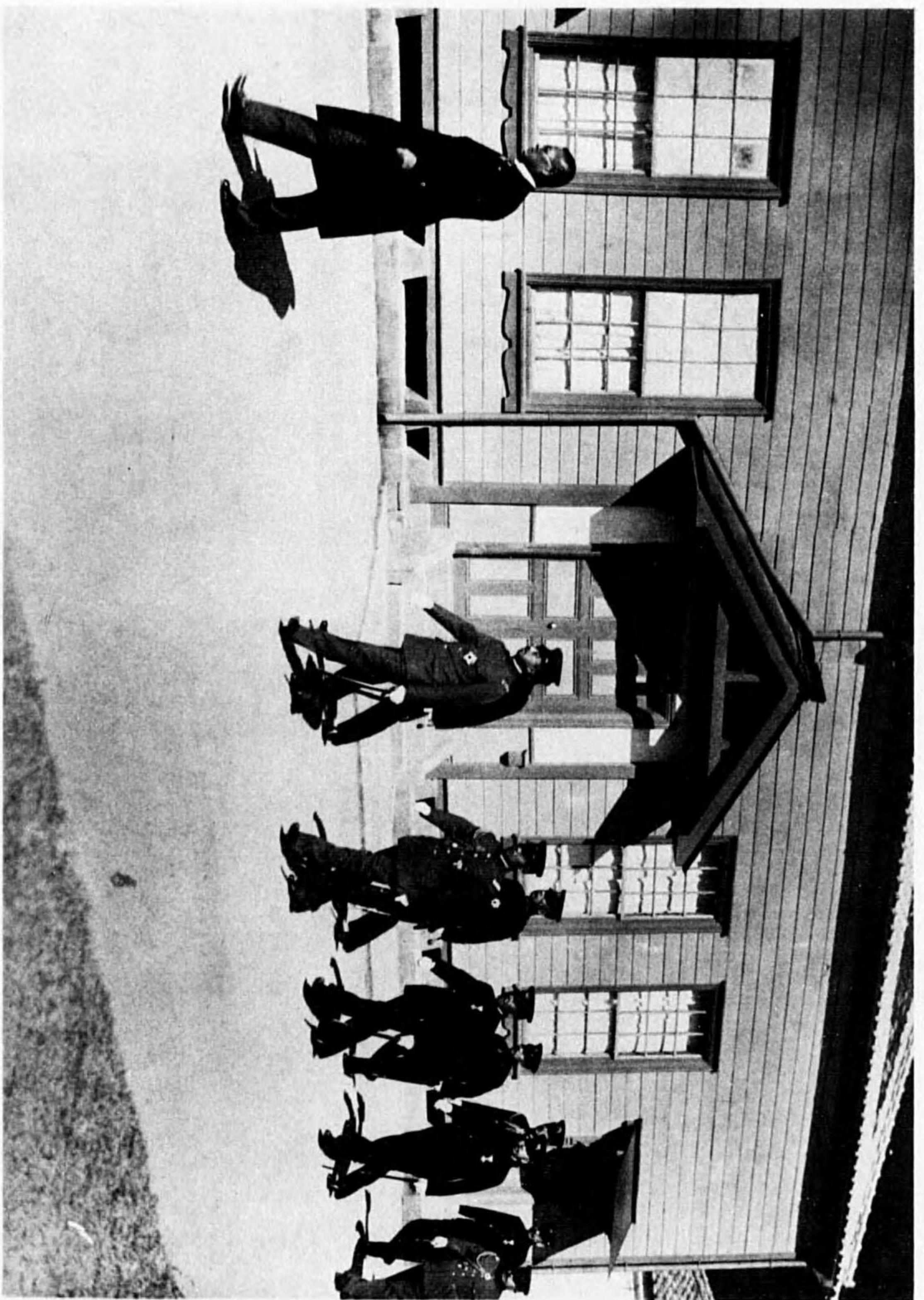


御  
座  
所



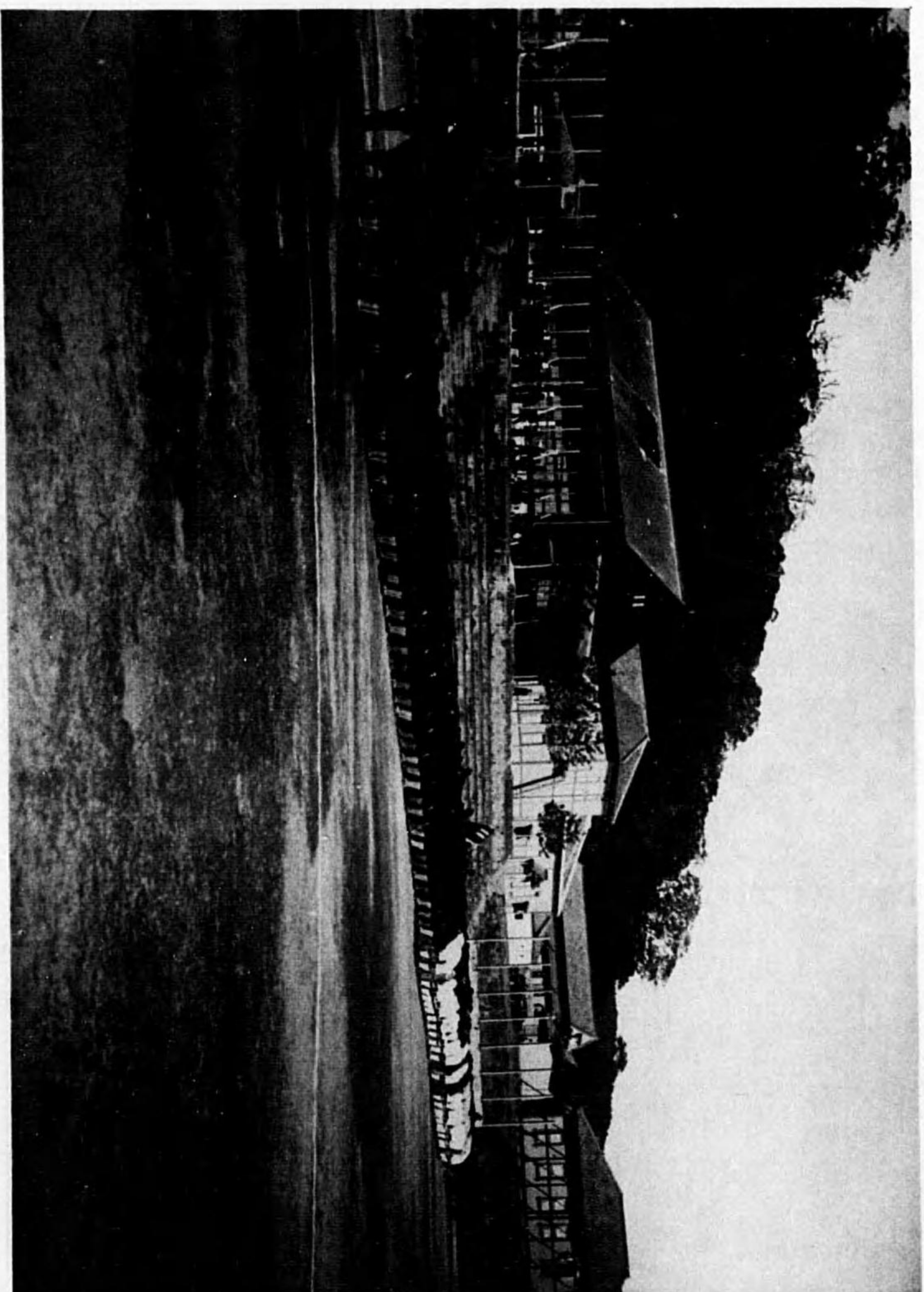
室 謁 拜 立 列





御野立に所向はせ給ふ

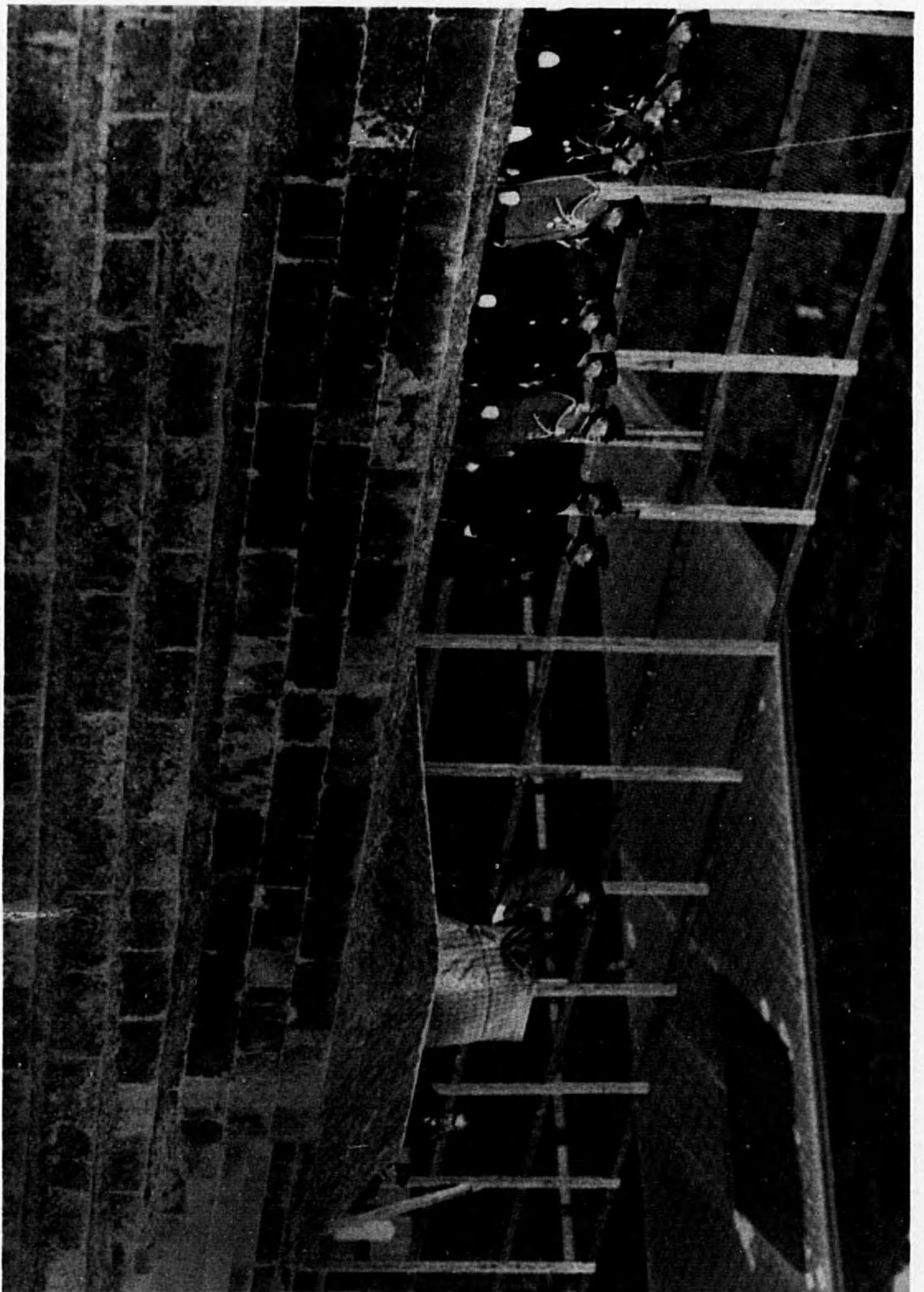




拜奉の徒生員職

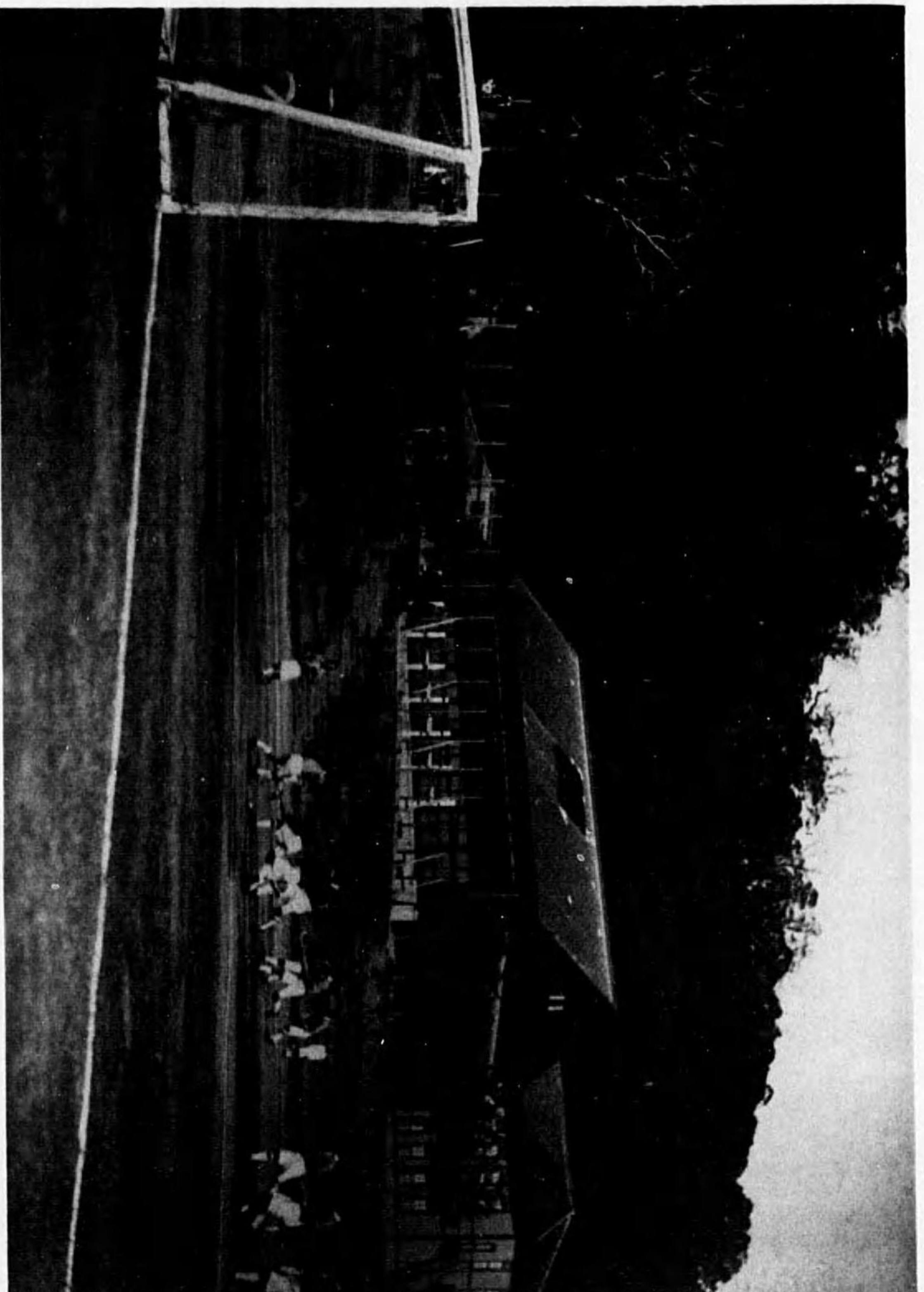






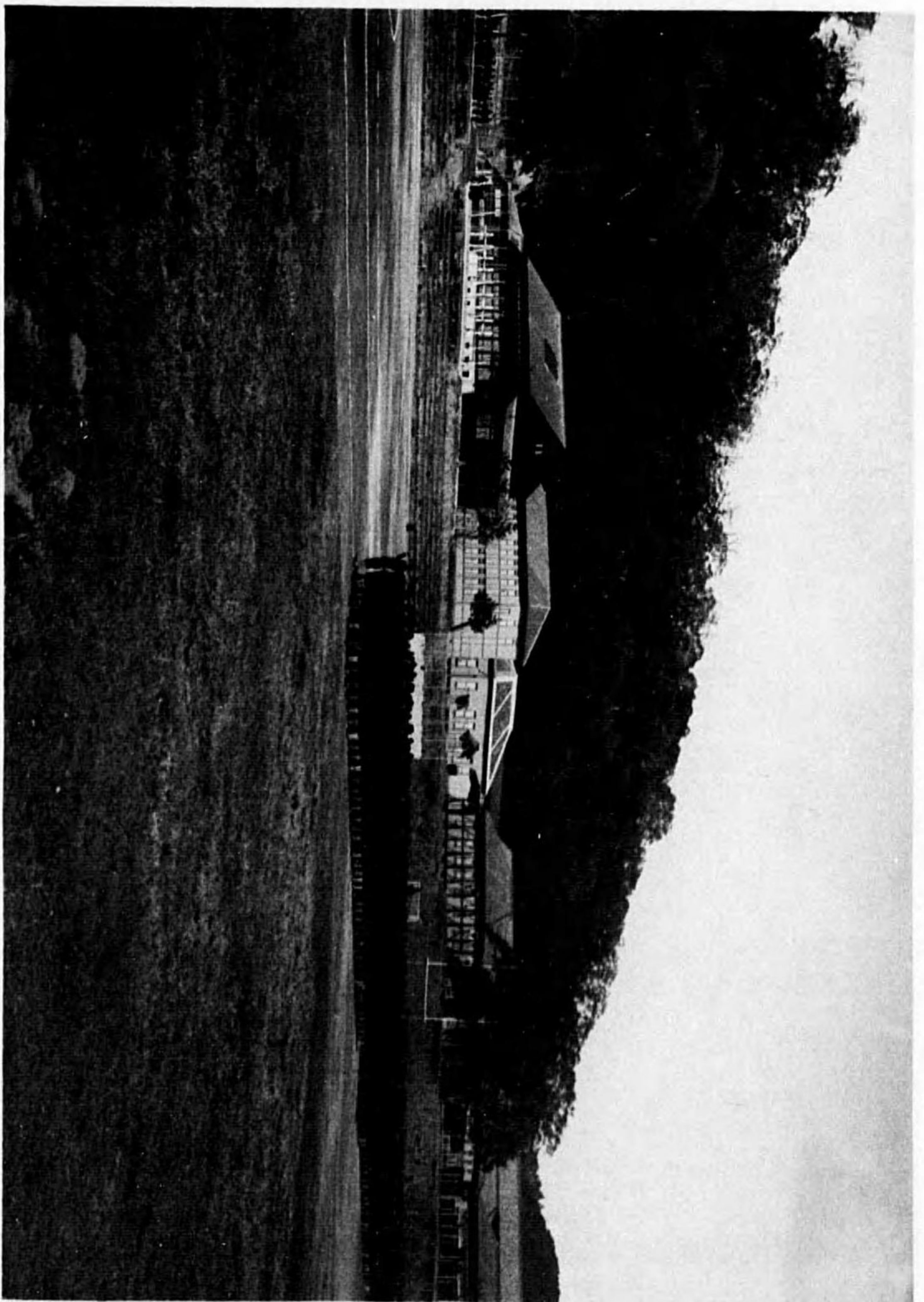
覽 天 技 競





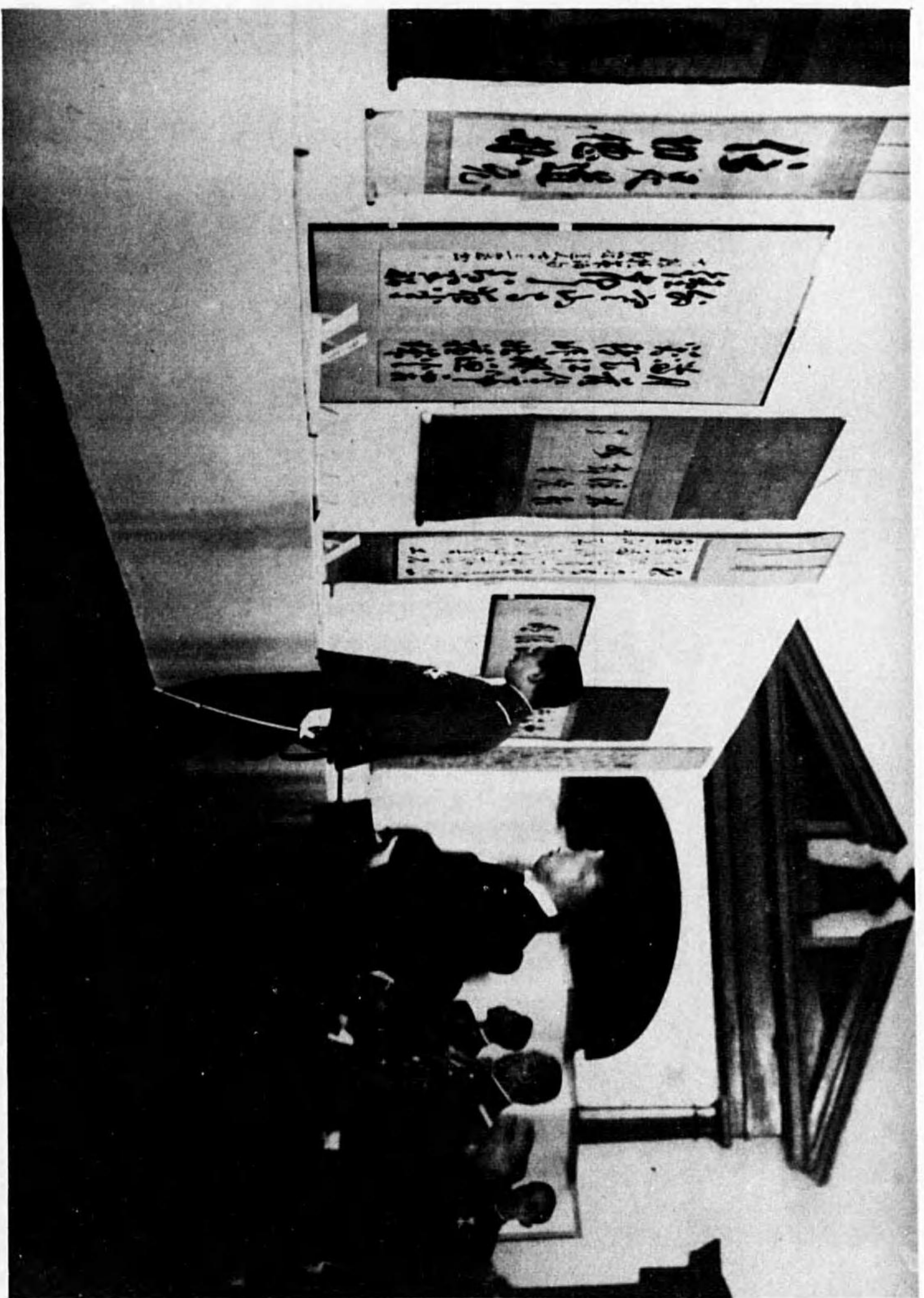
天 覽 ホ ッ ケ ー 競 技





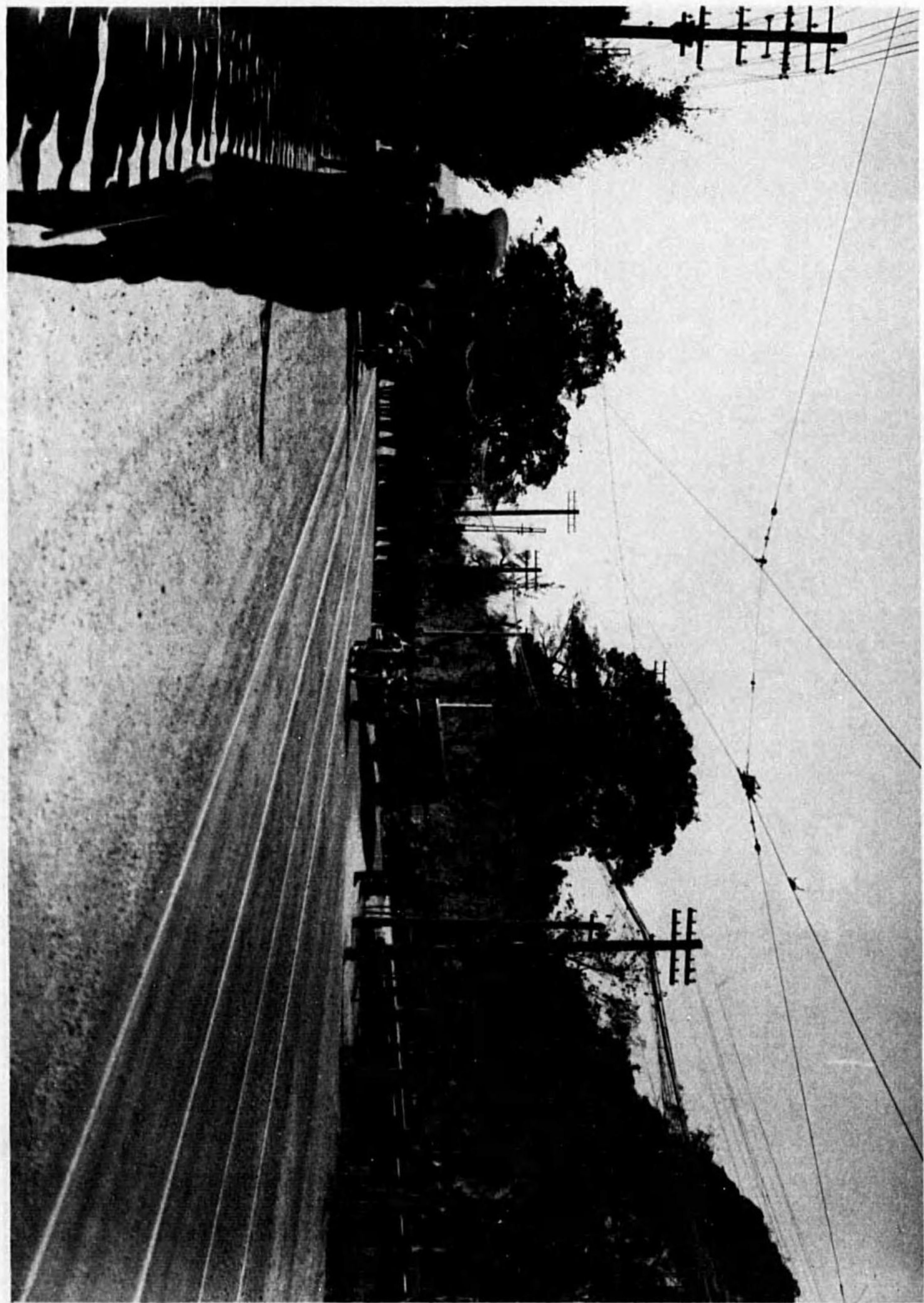
職 員 生 徒 萬 歲 奉 唱





鹿兒島市天品室に於て本校講内堂部

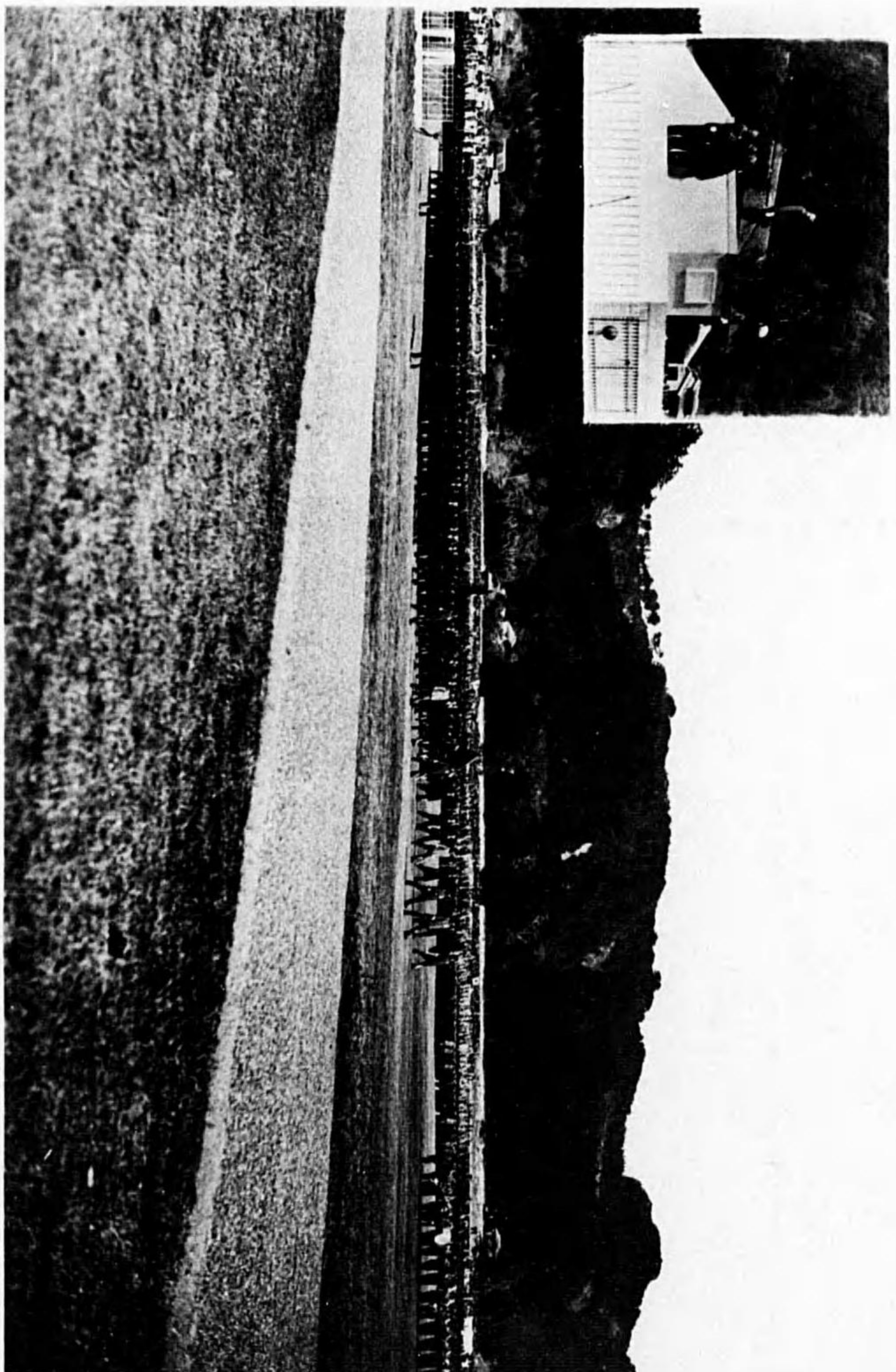




邊 御 の 肉 簿



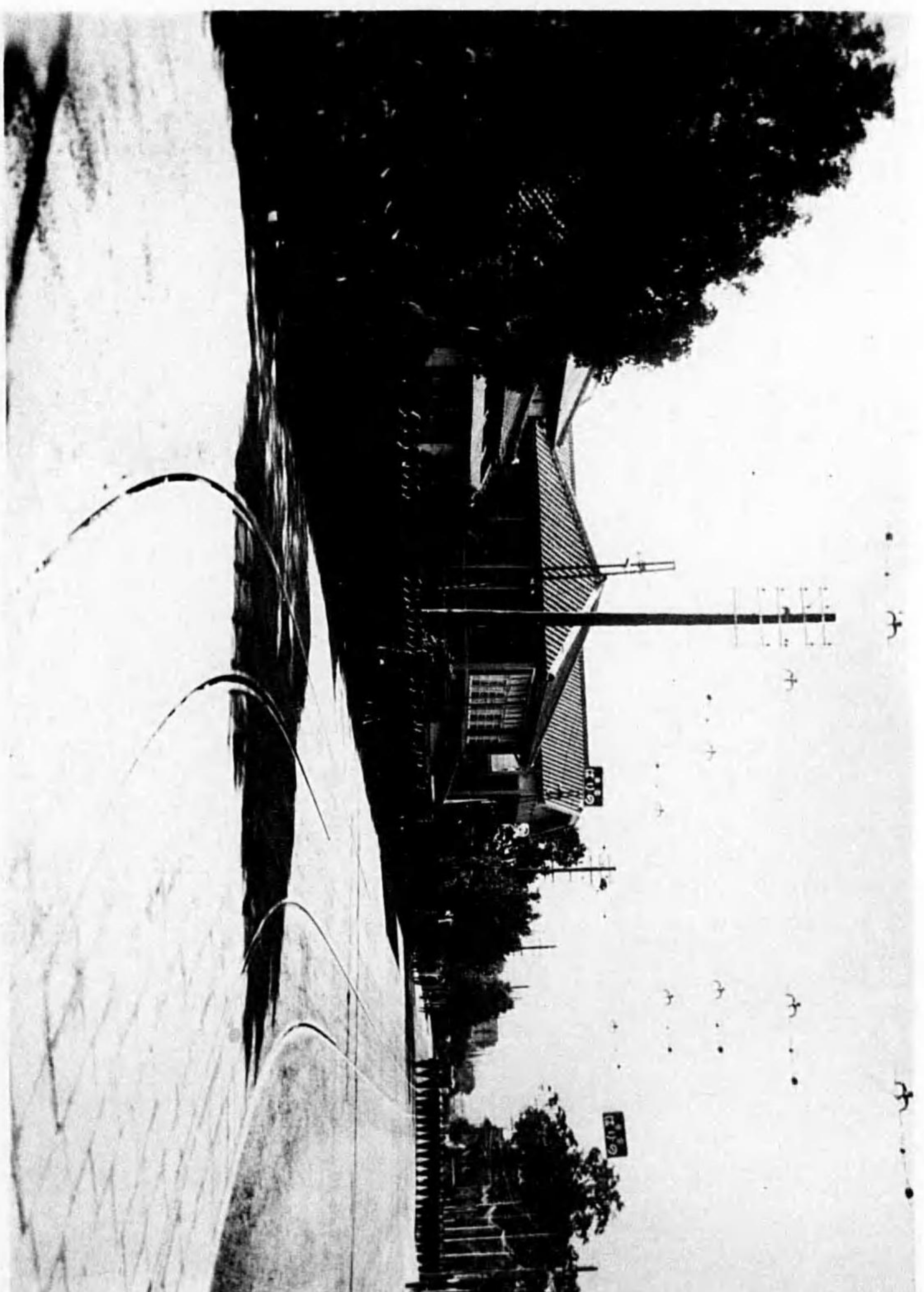




(隊部校本處の旗校央中) 閱観御るけ於に場兵練歌伊





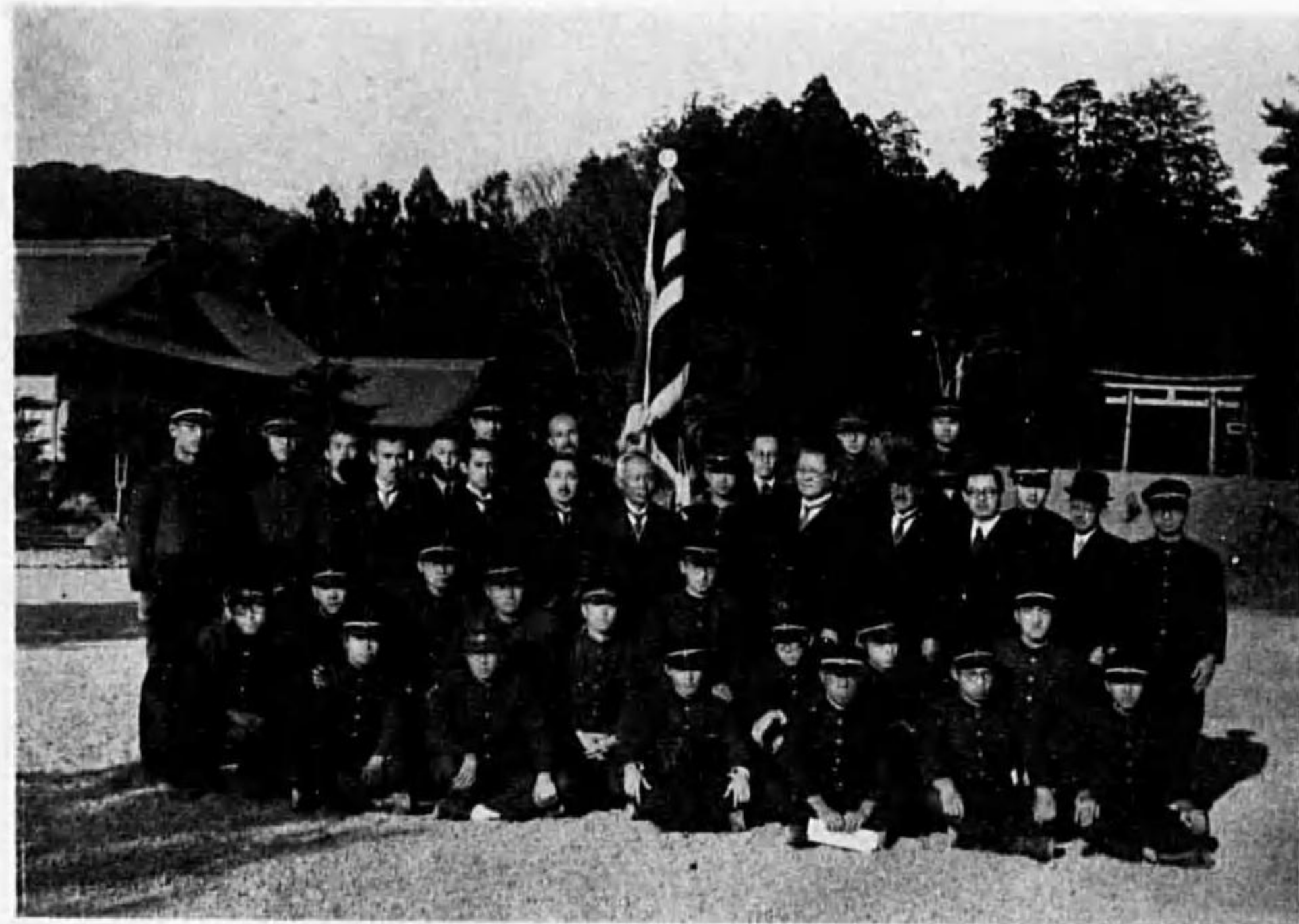


徒 生 校 舎 の 迎 奉

1931

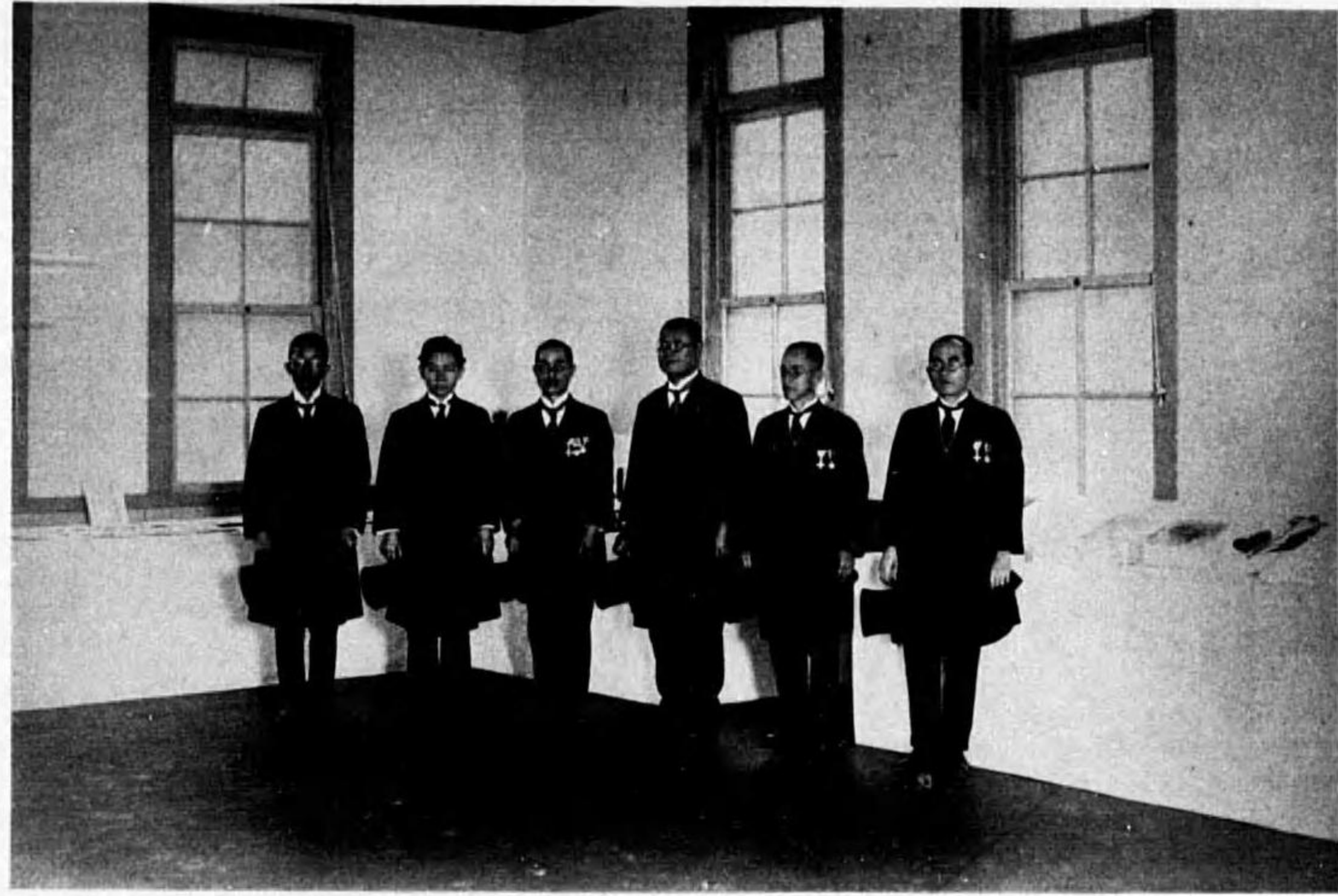


霧島神宮に御安泰を祈願せる職員生徒の代表

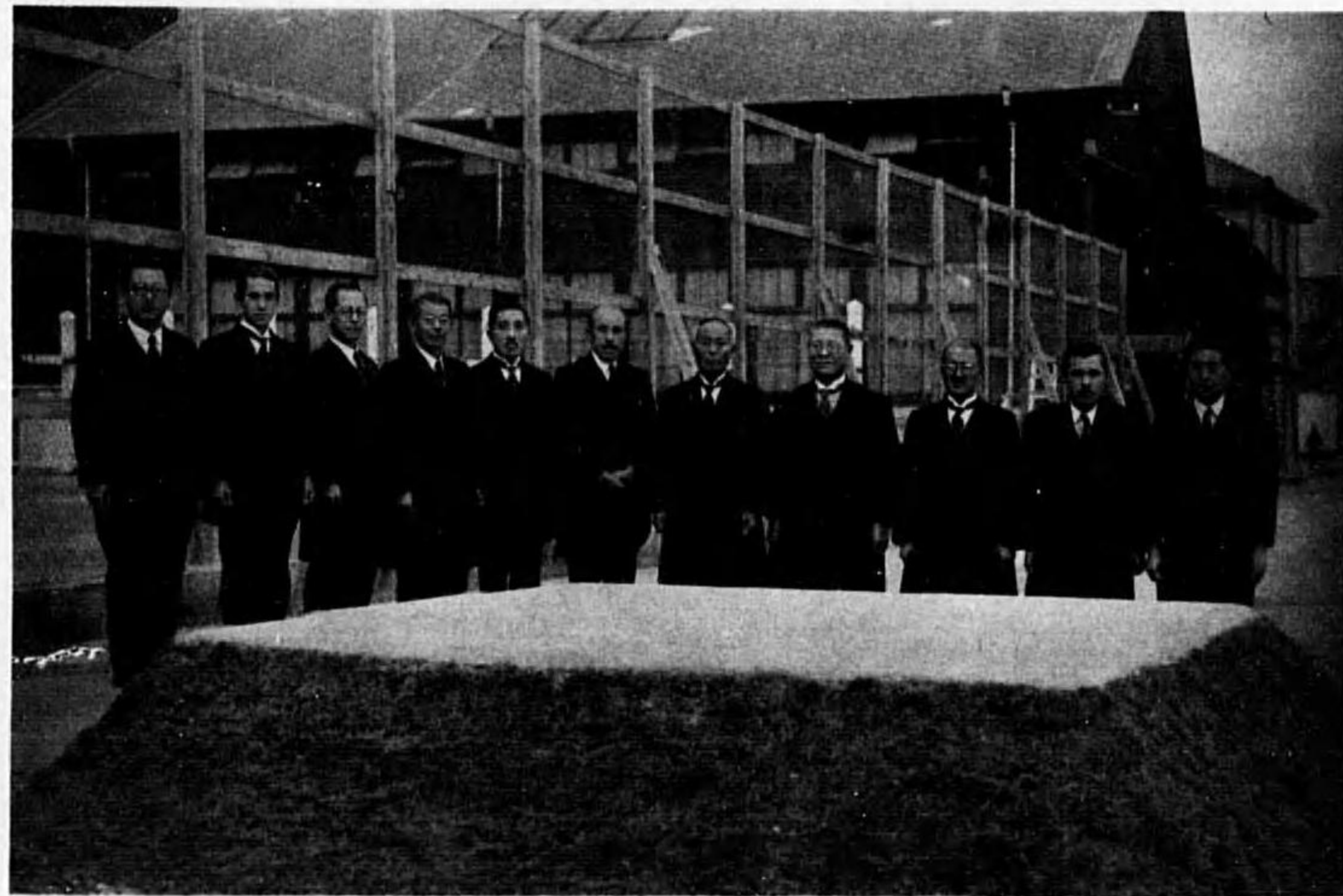


表代の徒生員職るせ賽報に宮神同



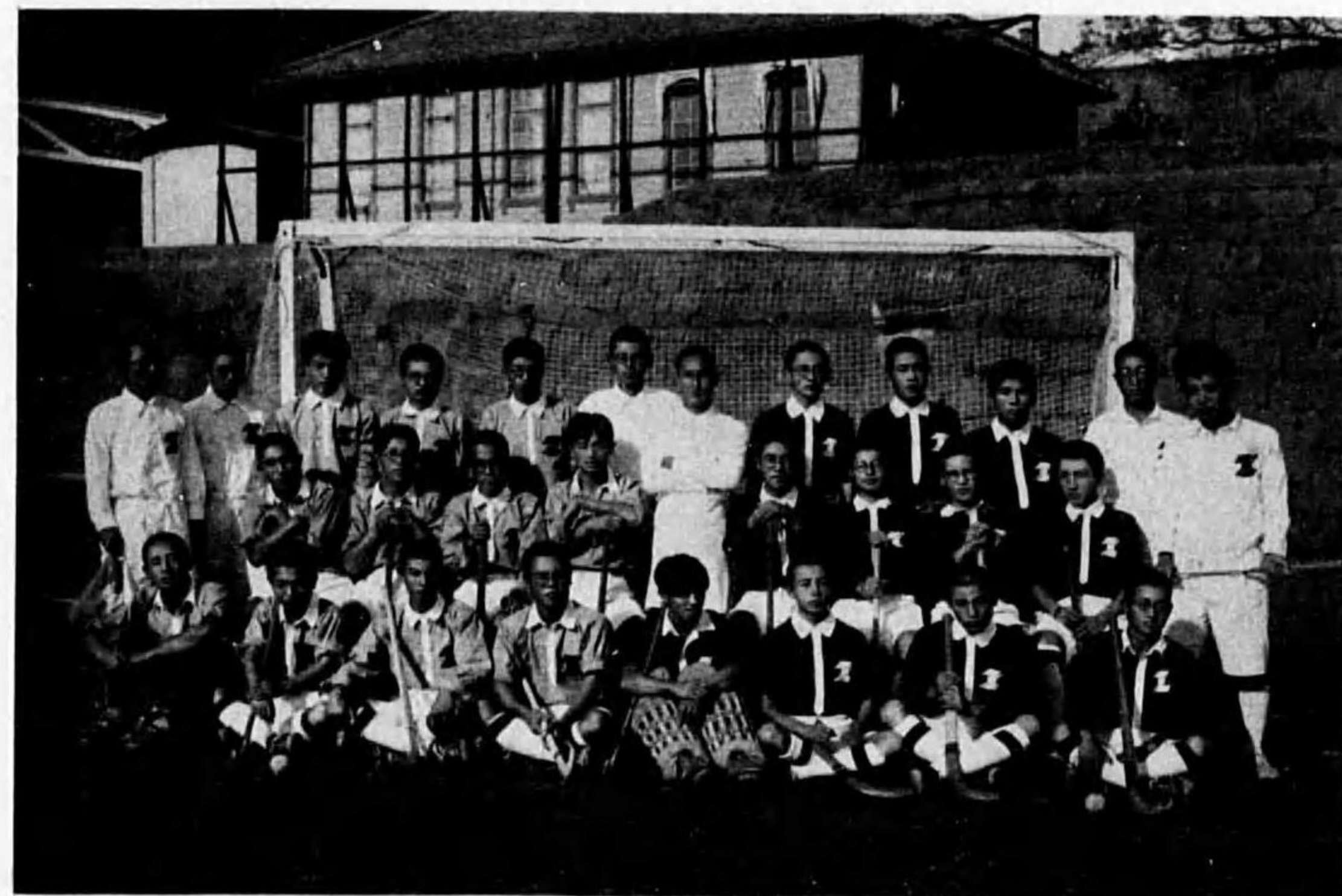


授教諸及長館るたし浴に榮光と室品覽天



長係各務事迎奉及長館と所立野御



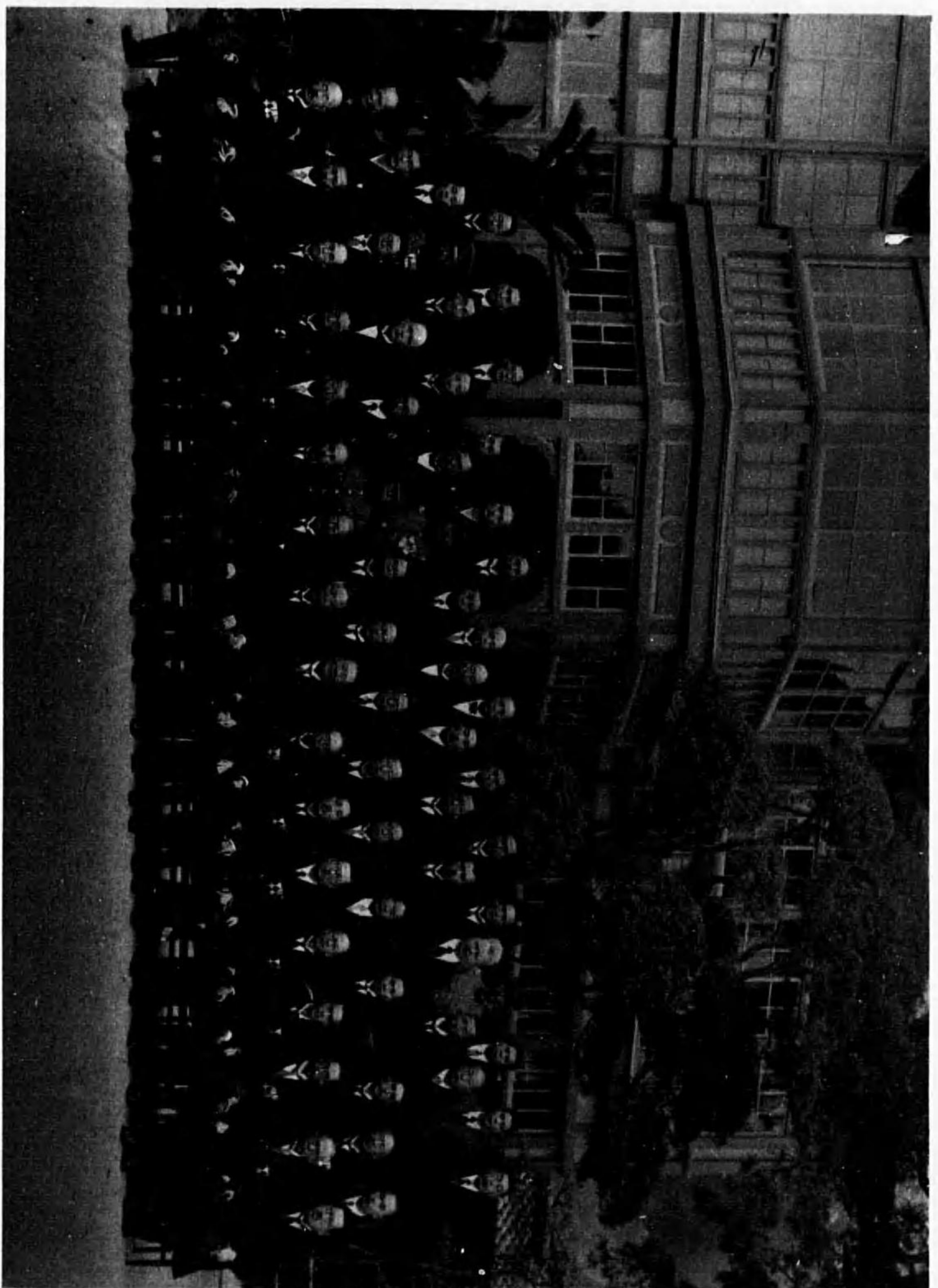


手選一ケツホるたし浴に榮光

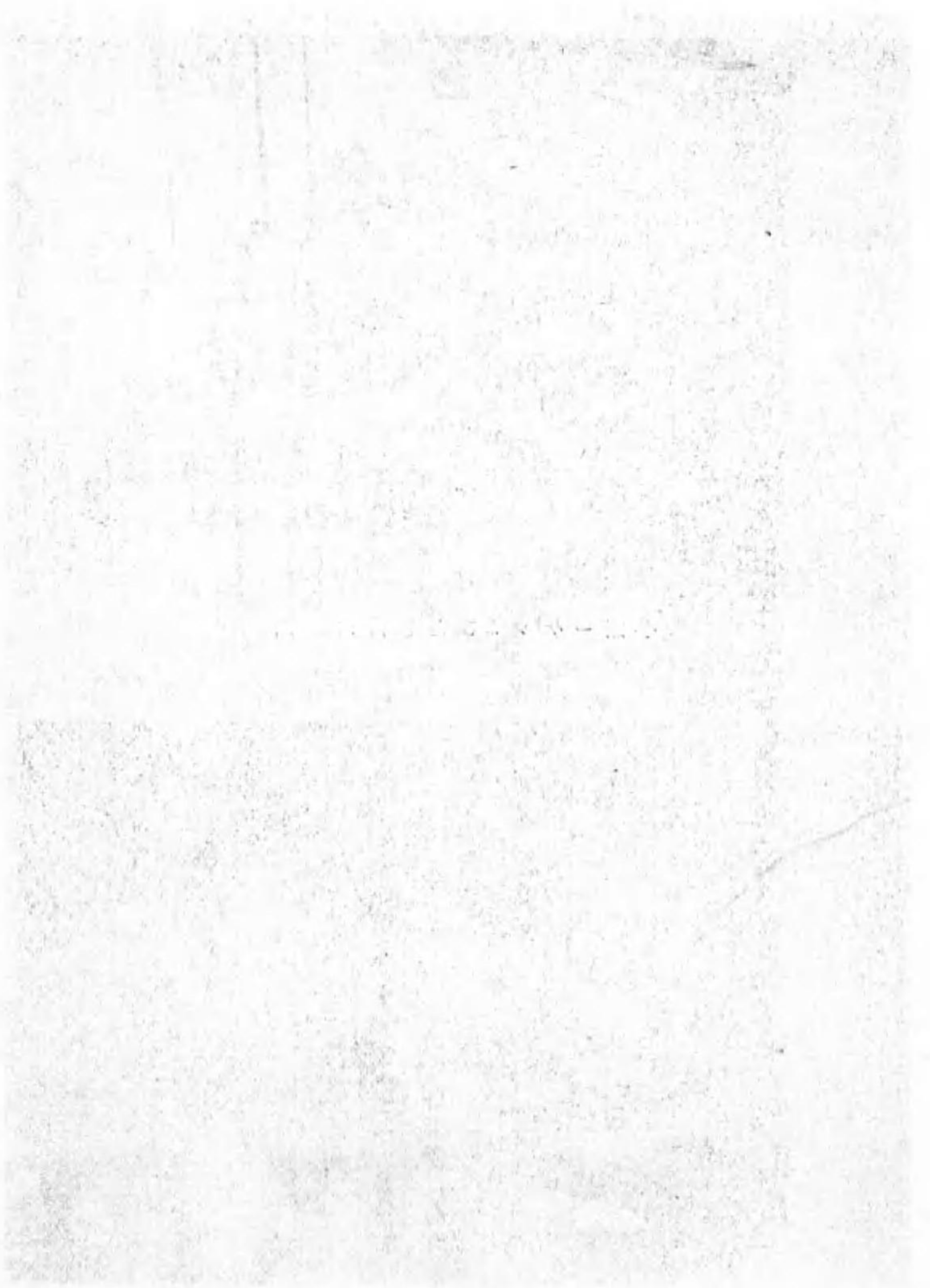


備警内校の前迎奉





光榮に浴たし職員一員













- 主 霧島神宮に御安泰を祈願せる職員生徒の代表
- 同神宮に報賽せる職員生徒の代表
- 主 天覽品室と光榮に浴したる校長及諸教授
- 御野立所と校長及奉迎事務各係長
- 主 光榮に浴したるホツケー選手
- 奉迎前の校内警備
- 主 光榮に浴したる職員一同

行幸御治定



(宮内省告示第二十一號)  
 天皇陛下陸軍特別大演習並海軍特別演習御統裁ノ爲來十一月六日御發轅鹿兒島宮崎兩縣下へ行幸演習御統裁終了後同縣下ヲ御巡幸同二十一日還幸アラセラルヘキ旨仰出サル

昭和十年十月十九日

宮内大臣 湯淺倉平



行幸御日程 (昭和十年十月十九日官報)

鹿兒島宮崎兩縣下行幸御日程左ノ如シ

十一月六日

午前九時二十五分 宮城御發輦

同 九時三十五分 東京驛御發車

同 十時四十五分 横須賀驛御著車

逸見埠頭ヨリ御乘艇 軍艦比叡ニ御乘艦

同 十一時五十分 横須賀軍港御出港

御航海

同日

御航海

同日

午後零時三十分頃 鹿兒島港御入港

住吉棧橋ヨリ御上陸

大本營 鹿兒島縣立第一高等女學校

同日

演習御統裁

同日

演習御統裁

大本營 宮崎縣立都城中學校

同日

演習御統裁

同日

演習御統裁

同日



觀兵式  
賜 饌

午後二時 大本營御出門

同 二時五十分 都城驛御發車

同 三時十二分 宮崎驛御著車

行在所 宮崎縣女子師範學校

同 十四日

午前九時 行在所御出門

官幣大社宮崎神宮、皇宮屋、宮崎高等農林學校、宮崎縣立宮崎

中學校、宮崎縣師範學校、宮崎縣廳、宮崎地方裁判所、宮崎縣

立宮崎高等女學校、御親閱場へ行幸

同 十五日

午前八時五十分 行在所御出門

同 八時五十七分 宮崎驛御發車

同 十時三十四分 延岡驛御著車

延岡城山、旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場へ行幸

午後零時七分 延岡驛御發車

同 四時五十一分 鹿兒島驛御著車

行在所 鹿兒島縣立第一高等女學校

同 十六日

午前九時 行在所御出門

同 九時八分 鹿兒島驛御發車

同 十時二十一分 霧島神宮驛御著車

官幣大社霧島神宮、農林省鹿兒島種馬所へ行幸

午後二時十分 霧島神宮驛御發車

同 三時六分 鹿兒島驛御著車



行在所 鹿兒島縣立第一高等女學校

同 十七日

午前九時五分 行在所御出門

鹿兒島高等農林學校、別格官幣社照國神社、城山、第七高等學校造士館、鹿兒島縣廳、鹿兒島地方裁判所、御親閱場へ行幸

行在所 鹿兒島縣立第一高等女學校

同 十八日

午前九時 行在所御出門

鹿兒島縣立第一鹿兒島中學校、鹿兒島縣師範學校へ行幸

同 十一時 行在所御出門

鹿兒島港住吉棧橋ヨリ御乘艇 軍艦比叡ニ御乘艦

午後零時十分頃 鹿兒島港御出港

同 一時四十分頃 古江港御入港

古江港棧橋ヨリ御上陸 吾平山上陵へ行幸

同 四時五十分 古江港著御

古江港棧橋ヨリ御乘艇 軍艦比叡ニ御乘艦

同 五時四十五分頃 古江港御出港

御航海

同 十九日

御航海

同 二十日

御航海

同 二十一日

午前八時三十分頃 横須賀軍港御入港

逸見埠頭ヨリ御上陸

同 九時五十分 横須賀驛御發車



同 十一時  
還幸

東京驛御著車

八

奏 上 書

第七高等學校造士館長 臣堀重里 誠恐誠惶頓首頓首謹ミテ言ス  
園田年豐ニシテ菊花芳ヲ發シ江山霜落チ楓葉丹ヲ織ル畏クモ  
聖駕西下兵ヲ日薩ノ間ニ閱シ給ヒ肄武省方ノ餘乃チ  
蹕ヲ移シテ

天儀嚴カニ我カ第七高等學校造士館ニ臨マセ給フ 臣重里 誠恐誠  
懼頓首頓首伏シテ惟ミルニ

天皇陛下文武叡明仁孝寬慈庶績夙ニ震位ニ熙マリ

皇猷誠ニ繼體ニ宣ヒ最モ

聖慮ヲ教學ニ注カセ給ヒ昭明ノ風兆庶草偃シ協和ノ德萬邦慶ニ

九



頼ル曩ニハ

鶴車本校ニ臨マセラレ 監撫ノ儀範ヲ仰キ尋イテ

龍駕閱武ノ典ヲ東肥ノ野ニ擧ケサセラレ 還御ノ

鹵簿ヲ本縣ニ駐メ給フヤ本校ノ職員生徒 賜謁ノ恩ヲ拜シ

親閱ノ榮ヲ荷フ感激今猶ホ新ナルモノアリ本日特ニ 臨幸ヲ賜  
ヒ

皇明ヲ教官ノ學術研究ニ注カセラレ

聖鑒ヲ生徒ノ運動競技ニ垂レサセ給フ 臣重里 誠歡誠喜恐竦措ク

能ハス竊ニ惟ミルニ本校ハ明治三十四年以來高等普通教育ヲ

授ケ多數ノ卒業生ハ概ネ大學ノ業ヲ卒ヘ邦家ニ貢獻セリ更ニ

舊造士館ノ創立ニ溯レハ星霜已ニ百六十餘ヲ閱シ德器ヲ成シ

名分ヲ正スノ學風ハ多數ノ人材ヲ出シテ明治維新ノ

鴻業ヲ翼贊スルニ與レリ且校地ハ舊薩藩主島津氏三百餘年ノ居

城址ニシテ畏クモ明治五年

天皇西巡ノ 行在所タリシ

聖跡ナリ學舎ノ本館ハ亦當時城北磯ノ地ニ在リ 臨幸午餐ヲ

召サセラレシ光輝アル歴史ヲ有ス

先帝亦一タヒ 巡啓ノ轍ヲ校庭ニ印サセ給ヒ 寵光ヲ 侍觀ノ

餘ニ垂レサセラル乃チ本校職員生徒ハ舊ヲ念ヒ今ヲ稽ヘ本日

ノ光榮ニ感激シテ夙夜淬礪邦家ノ進運ト世局ノ變移トニ鑑ミ

思想ノ中正學風ノ醇厚造士ノ名ニ背カサルヲ期セサルナシ微

臣何ノ幸ソ乏ヲ本校校長ニ承ケ叨ニ



天顔ニ咫尺スルノ榮ヲ荷ヒ誠ニ激切怖懼ノ至ニ禁フルナシ冀ク  
ハ篤ク

聖旨ヲ體シテ益駑鈍ヲ盡シ協心戮力校風ノ振肅ヲ謀リ罔極ノ  
皇徳ト本日ノ殊恩トニ答ヘ奉ランコトヲ誓ヒ恭シク上表以聞  
シ

聖壽ノ長久ト

寶祚ノ無窮トヲ祈リ奉ル 臣重里 誠恐誠惶頓首頓首謹ミテ言ス

昭和十年十一月十七日

第七高等學校造士館長從四位勳三等 臣堀重里 謹上

### 奉迎準備

昭和十年五月二十日、宮内省より本多行幸主務官及黒田侍從等の一行來  
校あり。今秋 天皇陛下陸軍特別大演習並に海軍特別演習御統裁のため、  
鹿兒島、宮崎兩縣下に行幸あらせられ、次で地方行幸あらせらるゝやにつ  
て下檢分のためなり。是に於て、本校は臨幸を仰ぎ奉る豫想の下に、六月十  
九日放課後評議員及各事務課主任會議を開き、奉迎事務分掌につきて協議  
し、六月二十二日職員會議を開き、左の如く分掌を定む。

### 奉迎事務分掌

#### 一、分掌規程

第一條 奉迎ニ關シ左ノ係ヲ設ク

設備係 庶務係 天覽品係 天覽行事係 生徒係 接待係



衛生係 警備係 記録係 謹寫係 會計係

第二條 係ニ長一名係員若干名ヲ置キ學校長之ヲ命ス

第三條 各係ノ分掌事務左ノ如シ

設備係

- 一、御通筋廊下及道路ノ設備ニ關スル事項
- 一、御座所、拜謁室ノ設備ニ關スル事項
- 一、御座所、拜謁室ノ調度ニ關スル事項
- 一、御野立所ノ設備ニ關スル事項
- 一、運動場ノ修理ニ關スル事項
- 一、供奉員其ノ他ノ諸控室ニ關スル事項
- 一、漏電其ノ他應急修理ニ關スル事項

庶務係

- 一、奉呈書類謹調ニ關スル事項
- 一、拜謁ニ關スル事項

- 一、天機奉伺ニ關スル事項
- 一、奉迎一般事務ノ連絡ニ關スル事項
- 一、文書ノ收受發送ニ關スル事項
- 一、時間ニ關スル事項
- 一、其ノ他係ニ屬セザル事項

天覽品係

- 一、天覽品室設備ニ關スル事項
- 一、天覽品調製蒐集竝ニ陳列ニ關スル事項

天覽行事係

- 一、運動場準備ニ關スル事項
- 一、御前ニ於ケル天覽行事ノ順序、人員、豫習、入場配置竝ニ退場ニ關スル事項

生徒係

- 一、生徒ノ監督ニ關スル事項
- 一、生徒ノ集合整列ニ關スル事項



一、職員家族ニ關スル事項

接待係

一、供奉員接待ニ關スル事項

二、列外供奉員接待ニ關スル事項

三、其ノ他參著者ノ接待ニ關スル事項

四、新聞記者寫眞班ノ接待ニ關スル事項

五、當日受付及車輛ニ關スル事項

(主トシテ先著者竝ニ列外者ニ關スル分)

衛生係

一、御座所、御野立所、天覽品室御通筋廊下ノ消毒及御通路ニ關スル事項

二、職員生徒ノ健康診斷、傳染病豫防ニ關スル事項

三、校舎内外ノ清潔ニ關スル事項

四、衛生ニ關スル外部トノ交渉事項

警備係

一、校舎内外ノ警備、火災豫防ニ關スル事項

二、危險藥品及電氣瓦斯等ノ注意ニ關スル事項

三、警備ニ關スル外部トノ交渉事項

記録係

一、行幸記録ニ關スル事項

謹寫係

一、記念寫眞謹製ニ關スル事項

二、寫眞撮影取締ニ關スル事項

會計係

一、經費ニ關スル事項

二、物品供給ニ關スル事項

二、各係員名

設備係 長 久保田 教授



庶務係

長

川出教授

荒武 雇

兒玉書記

谷山生徒主事補

下田代

雇

協野 雇

高田講師

池田講師

弟子丸書記

中馬書記

林 教授

坂路教授

佐山教授

牧 教授

中村教授

阿多教授

增井教授

尾崎教授

村上教授

川出教授

黒木生徒主事

松原教授

庶務係

長

川出教授

大久保教授

石井教授

田森教授

野中教授

尾崎教授

佐山教授

廣田教授

大津教授

中馬書記

兒玉書記

有川囑託

愛甲 雇

小平田 雇

天覽品係

長

日野教授

村上教授

田森教授

松原教授

阿多教授

兒玉教授

池田講師

大河平書記

早川囑託

柿元 雇

久保 雇

徳重 雇

富山 雇

荒武 雇

天覽行事係

長

吉利教授

松原教授

鈴木中佐

林 教授

前田講師

中村講師

上田講師

山口助教授

水島助教授

種子島教師

接待係

長

大久保教授

石井教授

飯島教授

田森教授

増井教授

鈴木中佐

佐伯教授

坂路教授

上村教授

兒玉教授

高田講師

山口助教授

弟子丸書記

有川囑託

徳重 雇

富山 雇

愛甲 雇

脇野 雇

小平田 雇

吉屋 雇

荒武 雇



衛生係 長

吉田教授	山口教授	村田校醫	小倉校醫	前田講師
中村講師	上田講師	谷山生徒主事補	早川囑託	
徳重 雇				

警備係 長

黒木生徒主事	吉利教授	後藤教授	野中教授	鈴木中佐
	佐伯教授	上村教授	牧教授	前田講師
	中村講師	上田講師	山口助教	水島助教
	種子島教師	大河平書記	谷山生徒主事補	早川囑託
	猪俣囑託	柿元 雇	下田代 雇	福迫 雇
後藤教授				

生徒係 長

黒木生徒主事	中村教授	鈴木中佐	山口教授
八波教授	前田講師	中村講師	上田講師

山口助教	水島助教	谷山生徒主事補
------	------	---------

記録係 長

橋本教授	川出教授	飯島教授	田森教授	廣田教授
	大津教授	有川囑託	愛甲 雇	

謹寫係 長

大久保教授	日野教授	八波教授	中馬書記	大河平書記
	兒玉書記	久保 雇		

會計係 長

弟子丸書記	新穂 雇	下田代 雇	脇野 雇	吉屋 雇
-------	------	-------	------	------

八月一日、鹿兒島縣廳より宮内省の通知として、地方行幸に際し本校にも  
 行幸あらせらるる旨、御内定ありとの通牒に接す。更に八月十日附を以て  
 文部省よりも同様の通牒あり。



是に於て館長は八月四日上京の途に就き、宮内省及文部省に出頭して事務の打合を遂げ、文部省より奉迎準備費として金壹萬圓の支出を得て歸校せり。かくて本校に於いてはこの無上の光榮に浴すべく、愈々本格的に奉迎準備に着手し、些の遺漏なからんことを期し、屢々各係長會議及職員會議を開き、又は各係の會議を開きてそれぞれ事務の打合をなせり。

### 係長會議並に職員會議

七月十日、午後一時より第一回係長會議を開き、大演習拜觀及各係豫算概算につきて協議。大演習拜觀に就いては、體操教官の演習地に於ける御野立所、最後の決戦地、拜觀生徒の輸送關係などの調査報告を聽き、奉迎準備の都合上、拜觀を差控ふることに略決定せしも、尙全職員の意向を徴することとし、四時三十分閉會。終つて御通路等の實地檢分をなす。

七月十一日、午前九時より第一回職員會議を開き、大演習拜觀につきて協議。拜觀は差控ふることに決定、正午閉會。

七月二十四日、午前九時より第二回係長會議を開き、天覽行事につきて協議。正午閉會。

八月十三日、午前九時より第三回係長會議を開き、行幸御内定に付き、その當日の行事などに關して打合をなし、正午閉會。

八月二十三日、午前九時より第四回係長會議を開き、行幸當日の行事その他につきて、大體の計畫案を定む。正午閉會。

九月六日、午後三時十分より第二回職員會議を開き、左の諸件につきて説明若くは打合あり。

一、行幸御順路の件

二、行幸御安泰祈願の件

三、授業時間勵行の件

四、職員家族奉拜の件

九月九日、午後三時十分より第五回係長會議を開く。館長より各係長に



對して問題提出の要求あり。川出庶務係長より『表識』につきて如何にすべきかとの相談あり。終つて同係長より奉迎の順序を記せる印刷物を配布し、それにつきて意見の交換ありて、多少の修正をなす。午後六時閉會。

九月十二日、午後零時三十分より第六回係長會議を開く。天覽行事に於て、若しスポーツを天覽に供する場合は、ホッケー競技を選定すべしとのことに決定し、午後五時閉會。

九月十六日、午後三時十分より第七回係長會議を開く。不日、宮内事務官來校の豫定なるを以て、行幸次第書細目及計畫書につきて逐條審議して大體を決定し、午後七時閉會。

九月十九日、午後零時三十分より第八回係長會議を開き、奉拜に關する件につきて協議す。體操教官も列席、午後三時閉會。

九月二十五日、午後三時十分より第三回職員會議を開き、行幸次第書細目及計畫書につきて協議、多少の修正を加ふ。午後四時閉會。

十月二十二日、午後三時十分より第四回職員會議を開く。館長より臨幸當日細目案につきて説明あり。當日の分擔事務を決定委囑し、午後五時閉會。

十一月六日、午後三時二十分より第五回職員會議を開く。警備實施計畫につきて黒木警備係長より詳細説明あり。夜警日割及役割等を決定し、午後五時閉會。

十一月十四日、午後三時十分より第九回係長會議を開く。決議事項につきて詳細に検討して最後の決定をなす。行幸當日の細目案に、左の件を補充することとす。

一、行幸路交通遮斷につきて

二、天覽品警備の爲天覽品室に交代宿直すること

十一月十五日、午前十一時より全職員を集め、館長は行幸當日細目案につきて詳細説明し、奉迎に當りて萬遺漏なきやう注意する所あり。正午散會。



## 設備、衛生警備の概要

奉迎事務分掌定るや、各係に於ては更に各分擔割を定めてこれが準備に著手し、それぞれその任務を遂行せり。今左にその概要を掲ぐ。

## 設 備

## 一、御座所（館長室）

天井を塗換へ室内リノリウム床を絨毯敷とし、漆喰壁を美しき壁紙に張換へ、シャンデリヤを取換へ、高雅なる窓掛を新調す。

室内には屋久杉の衝立一個、松に菊をあしらへる生花一臺を置く。御椅子、御卓子、御卓子掛は宮内省よりの御差廻品を用ふ。

## 二、御次室（階上應接室）

室内リノリウムを敷換へ、ペンキ及漆喰壁を塗換へ新に窓掛を備ふ。

## 三、列立拜謁室（職員閱覽室）

室内リノリウムを敷換へ、ペンキ及漆喰壁を塗換ふ。立御の御臺は教壇を白金巾にて張り、後方に金屏風を配す。

## 四、供奉宮内高等官室（教官室）

## 五、扈從高等官室（教官室）

## 六、供奉近衛將校室（庶務課室）

## 七、文部高官及校長室（階下應接室）

## 八、供奉判任官室（教務課室）

## 九、扈從判任官室（會計課室）

## 十、自動車係員室（會計課室）

## 十一、供奉側車係員室（會計課室）

## 十二、列外第二扈從者室（理二乙教室）

右各室はリノリウムを敷換へ、ペンキ及漆喰壁を塗換へ、椅子、卓子、卓子掛、茶菓煙草セットを置く。



## 三、天覽品室（生徒閱覽室）

リノリウムを敷換へ、ペンキ及漆喰壁を塗換へ、天覽品は巾三尺長さ六尺の机十脚を四壁に沿うて置き、白金巾を以て蔽ひ之に陳列す。

## 四、御野立所

運動場北側スタンド上に方一丈高さ三尺の土壇を築き、表面をコンクリートにて固め、側面に芝を植う。

御椅子、御卓子、御卓子掛は宮内省御差廻品を用ふ。

## 五、建物修理

イ、本館講堂、教室を始め校内ペンキ塗建物及門等殆ど全部に亘り、外部のペンキ塗換をなし、内部の洗滌を行ふ。

ロ、本館は大引根太の腐朽したるものを取換へ、床板を張換へ各室及廊下のリノリウムを敷換ふ。

## 六、道路修築其他

イ、御通筋の石橋には補強工事を施し、正門入口は勾配を緩にする爲め土堤を築き、尙正門より玄關迄の自動車道路を改修す。

ロ、天覽品室前より御野立所迄の御通筋を改修し、且御目障になる箇所には幔幕を張り尙御通路脇にありたる生徒控所は御通路狹隘なりし爲め約一間移轉す。

ハ、此の他校外外の石壁の除草、校庭並に運動場の美化作業を行ふ。

備考 右設備の結果校長室、教官室は圖書教室に、事務室は生徒控室に臨時移轉せり。

## 衛生

六月二十八日、係員打合會を開き衛生に關して全面的に審議し六月より十一月までの『月別豫定表』を製作して、健康診断、流行病豫防、便所、浴場、炊事場、下水溝その他の消毒掃除を計畫實施せり。

七月五日、職員、小使、その他の傭人並に之に準ずべき者、寄宿舍炊事關係出



入商人全員に赤痢豫防内服薬を服用せしむ。

七月十日、夏季休暇を利用し満鮮地方に旅行をなす者に就き種痘實施方  
縣警察部長より通達ありたるに付き第一學期試験終了後右該當者二十餘  
名に對し種痘を實施す。

九月一日、夏季休暇中寄宿舎建物の大修理行はれ會計課より生徒課全員  
立合の上完了後の引繼を受く。この大修理後の掃除を以て寄宿舎第一回  
の大掃除とす。

九月六、七日、晝休を利用し寮生全部の第一回健康診断を實施す。其際豫  
め縣衛生課に照會して全國傳染病流行地域調査の結果を参照し、その方面  
より來れる者に就き特に檢診の慎重を期したり。以後の健康診断に於て  
も亦然り。

九月九、十、十一日放課後、全衛生係員指導の下に全校生徒の赤痢豫防内服  
薬服用を實施す。

九月十三日、放課後通學生の第一回健康診断を實施す。

九月十五日、校内便所の汲取をなし、石油乳劑、粗製硫酸鐵を撒布す。以後  
毎日曜日之を行ふ。

九月二十日、晝休を利用し教官全部の第一回健康診断を行ふ。

九月二十三日、小使、その他の傭人並に之に準ずべき者の第一回健康診断  
を實施す。

九月二十六日、御先導者、單獨拜謁者、列立拜謁者の尿尿検査の爲、採便を縣  
立衛生試験所に送付す。

十月八日、御先導者家族の健康診断を行ふ。

十月十日、御先導者の咯痰検査を行ふ。

十月十六日、校内便所、浴場、食堂、炊事場の掃除大消毒を實施す。其の際  
熱湯、加里石鹼、石油乳劑、粗製硫酸鐵を使用す。本日より人夫數名を傭入れ  
以後一週間に亘り校舎其他建物外の敷地の除草、掃除、浚渫を行ふ。



十月二十三日、校舎、下水溝の大掃除を実施す。校舎掃除には主として加里石鹼を使用し、下水溝には石油乳劑を撒布す。

十月二十四日、寄宿舎、門衛詰所、小使室、其他附屬建物の大掃除を実施す。

掃除には主として加里石鹼を使用し、寮生の寢具は日光消毒をなす。寄宿舎の周圍には石灰を撒布す。

手指消毒の爲、校長室、教官室、事務室、食堂、寄宿舎等八箇所、昇水の水の設備をなす。

十月三十一日、第五六時限第一回施行者全員に就き第二回の健康診断を行ふ。

十一月一日、縣衛生課より係員三名來校、御座所（單獨拜謁室）列立拜謁室、廊下、扈從員控室、天覽品室の第一回消毒を行ひ、終了後封印す。若し部屋に出入の要ある時は消毒せる上衣、靴カバーを用ふ。

十一月二日、御通路脇生徒徒便所を消毒閉鎖し、別に校内植物園に假便所を

設く。

本日より一週間毎日人夫數名を傭入れ、校内敷地建物一切の第二回大掃除を実施す。

十一月十日、縣衛生課並に本校圖書室に於て天覽品の消毒を行ふ。

十一月十二日、御野立所附近の芝生の掃除並に手入をなし、昆蟲驅除の爲煙草の粉末を撒布す。

十一月十四日、縣衛生課より係員三名來校、御座所、列立拜謁室、廊下、扈從員控室、天覽品室の第二回消毒を行ひ、終了後嚴重に封印す。

奏上書第七高等學校造士館概覽、天覽品目錄並に概説、造士館沿革概要、單獨拜謁者名簿、列立拜謁者名簿の消毒を縣衛生課に於て行ふ。

十一月十五、十六日、最後の掃除を実施す。御野立所下の芝草にイマヅ香油を撒布す。

警 備



係員の數次會合協議の結果、大要左記の如く計畫實施す。

一、消防演習

十月二十九日放課後生徒消防隊規定によりて實施す。尙當日鹿兒島警察署より係員の派遣を乞ひその指導講評を受く。

二、有刺鐵線木柵設備

西南寮裏城山境界線に設備す。

三、建物細密検査

十一月四日第一回検査、同十六日第二回検査を行ひ、同十七日朝更に嚴查の上縣警察に引繼ぐ。

四、校内臨時燈設備

校内の七箇所に臨時燈を設く。

五、臨時門衛所設備

十一月四日より同月十八日迄北門及西門に門衛所を設け、臨時守衛三名

を置く。

六、特別警備

十一月四日午前八時より同月十八日午後六時までを特別警備期間としこの期間左記の警備を行ふ。

(一) 守衛警備

特別警備期間中六名の守衛をして構内の警備に當らしむ。

(二) 夜警陣

十一月七日午後八時より同月十八日午前四時まで毎夜夜警陣を布く。夜警陣を分ちて左の四期となす。

① 第一期夜警陣 自七日午後八時至十三日午前四時。

本期の夜警陣には全職員及び寮生之に當る。

② 第二期夜警陣 自十三日午後八時至十六日午後十二時。

本期の夜警陣は全校職員生徒之に當る。



(3) 第三期夜警陣 自十七日午前零時至同七時三十分縣警察引繼時。  
 本期の警備は警備係職員全部、一般職員の一部及寮生第一學年生徒の一部之に當る。

(4) 第四期夜警陣 自十七日午後八時至十八日午前四時。

本期の警備は職員及各組正副總代之に當る。

(三) 縣警察及憲兵隊警備

十七日午前七時三十分より正午までの警備は縣警察及憲兵隊に一任す。

備考 警備に關して制定せる服務規程は之を略す。

表員人及間時務服陣警夜

夜警陣	服務時間	職員	生徒警備隊		備考	
			司令	生徒		
第一期	第一夜	自七日午後八時至八日午前四時	九名	東寮委員	東寮生全員	一、細部ノ勤務割ハ別ニ示ス 二、第九夜勤務ノ第一、三學年生ハ第二期ニ於ケル他ノ勤務ヲ免ズ 三、第二、三學年生ハ十六日御親閱豫行演習及ビ十七日御親閱部隊ニ参加スルヲ以テ第九夜後半及第十六夜前半ノ生徒勤務ニハ第一學年生ヲ割當ツルモノトス 四、勤務中毎夜一回夜食ヲ給ス
	第二夜	自八日午後八時至九日午前四時	八名	南寮委員	南寮生全員	
	第三夜	自九日午後八時至十日午前四時	八名	西寮委員	西寮生全員	
	第四夜	自十日午後八時至十一日午前四時	八名	南寮委員	南寮生全員	
	第五夜	自十一日午後八時至十二日午前四時	八名	東寮委員	東寮生全員	
	第六夜	自十二日午後八時至十三日午前四時	八名	西寮委員	西寮生全員	
	第二期					
	第七夜	自十三日午後八時至十四日午前四時	十六名	體操教官一名	理科第二、三學年生	
	第八夜	自十四日午後八時至十五日午前四時	十六名	體操教官一名	文科第二、三學年生	
	第九夜	自十五日午後八時至十六日午前四時	十六名	體操教官一名	理科第一學年及學校附近ノ學生	
第十夜	自十六日午後八時至十七日午前四時	八名	體操教官一名	文科第一學年生		
第三期	同後半	自十七日午前零時至同七時三十分	二十八名			
第四期	第十一夜	自十七日午後八時至十八日午前六時	十名	組總代五名	各組正副總代三十六名	



## 御安泰祈願式

九月八日日曜日を下し、御安泰祈願のため霧島、鹿兒島兩神宮に向ふ。館長、職員代表(各係長)十名及生徒代表二十六名(學友會總務二名、同理事六名、各學級總代十八名)合せて三十七名は校旗を捧げて四台のバスに分乗し午前八時出發、先づ霧島神宮に向ふ。同午前十一時頃著。特別參拜の儀を以て嚴肅に御安泰の祈願を籠め、堀館長、職員總代久保田教授、生徒總代重光安岡の二名、恭しく玉串を奉奠して式を終ふ。因つて拜殿前の廣場に於いて記念の撮影をなし、午後二時鹿兒島神宮に到着、霧島神宮に於けると同様に御安泰祈願の式を擧げて、午後四時歸校せり。

## 校内修祓式

十一月八日午前十時、職員生徒一同運動場に集合して、修祓の式を行ふ。御野立所に注連を張り廻らし、その前面スタンド下に祭壇を設けて、照國神

社神官祓詞を奏上し、堀館長、職員代表久保田教授、生徒代表重光、安岡の二名玉串を奉奠して、嚴肅裡に式を終へたり。なほ館長及數名の職員代表は本館二階の御座所並に正門に對して修祓の儀を行へり。

## 豫行演習

臨幸を仰ぐに當り、些の過失なからんことを期して、奉迎、奉拜、奉送につき、左の如く屢々豫行演習を行へり。

九月十九日、午前十一時より職員生徒運動場に集合し、奉拜の豫行演習を行ひ、正午解散。

十月二十一日、午後一時より校内に於ける奉迎送及奉拜の豫行演習を行ひ、午後三時三十分解散。

十月三十日、勅語奉讀式後、午前九時三十分より同十一時まで、校外外に於ける奉迎送及奉拜の豫行演習を行ひ、十一時より十二時三十分まで教官室



に於いて右の批評會開催。更に午後一時より又豫行演習あり。この際縣廳に於て仕立てたる自動車を鹵簿に擬し、奉迎、拜謁、奉拜、奉送等順を追うて演習す。列立拜謁に就ては、その前後數回の豫行演習をなせり。

十一月七日、縣市全体の奉迎豫行演習に参加するため、職員生徒は午前七時運動場に集合、海岸住吉棧橋附近に至る。同九時三十分歸校。同十時三十分より校内に於ける奉拜演習ありて、同十一時三十分終る。更に午後一時十分より校内外の豫行演習ありて、同三時三十分解散。

十一月十五日、午前八時三十分より最後の豫行演習を行ふ。午前九時三十分著御と想定し、同時刻までに各部署に就き、十時二十分終了。後館長の訓示ありて解散。

#### 附記

十月二十三日、伊敷練兵場に於ける御親閱豫行演習に参加。十一月四日、鷹城學生隊の奉迎提灯行列豫行演習に参加せり。

### 鹿兒島市著御

十一月八日、秋空一碧瑞氣天に満つ。鷹城全市は今や奉迎の準備全く整ひ、新装をこらしてひたすら著御を待ち奉る。本校に於ては、午前十時四十分校内の修祓式終るや、直に堀館長及有資格者一同は住吉棧橋附近所定の場所に、他の職員生徒は鈴木配屬將校及體操教官引率の下に、海岸近き石燈籠通南側所定の場所に整列して、全市民と共に鳳駕を待ち奉る。

六日宮城を發御あらせられし陛下には、御召艦「比叡」に乗御、海路平安、八日午後零時三十分殷々たる皇禮砲聲裡に鹿兒島港に著御遊ばさる。午後二時住吉棧橋より御上陸、直に自動車鹵簿にて沿道に堵列せる多數官民の赤誠こもる奉迎を受けさせられ、蕭々として大本營(鹿兒島縣立第一高等女學校)に入御あらせ給ふ。

此日午後三時三十分より同五時三十分までの間に於て、館長及諸教授は



各自大本營に參入し、天機を奉伺せり。

大演習地へ御發輦

大本營に著御遊ばされし。陛下には畏くも御風氣にわたらせられ、御静養あらせらると拜承し、麗城全市民は憂懼措く所を知らず、速かに御平癒あらせらるゝやう祈念し奉る。幸にその後の御經過極めて御良好に渡らせられ、翌九日朝には全く御平癒あらせられ、終日大本營に於いて御統裁遊ばされしやに洩れ承り、全市民始めて愁眉を開けり。十日午後一時、陛下には大本營を出御、鹿兒島驛頭に於ける多數文武顯官の奉送裡に天機麗しく、午後一時十二分御召列車にて大演習地へ向つて發御あらせらる。本校よりは堀館長及久保田教授全校を代表して奉送せり。

觀兵式及賜饌

陸軍特別大演習は十二日終了し、翌十三日午前九時都城市外和田原飛行場に於て大觀兵式舉行せらる。本校よりは久保田教授陪觀の榮を受けた

り。

次で正午より都城歩兵第二十三聯隊營庭に於いて御賜饌の盛儀あり。この日御召の榮に浴したるものは各方面の文武官民約五千八百名なりきと云ふ。本校よりは久保田、川出、吉田、橋本、吉利、黒木、日野、大久保、石井、飯島、後藤、中島、田森、松原、中村、阿多、増井、尾崎、林、山口、高田の諸教官その光榮を忝うせり。

鹿兒島市還御

宮崎縣下の地方行幸を終へさせられし。陛下には十五日午後四時五十分御召列車にて鹿兒島驛に著御、多數官民の奉迎裡に天機麗しく、再び大本營跡なる行在所に入御遊ばさる。本校多數の職員亦驛頭に奉迎せり。

この夜、一萬人を超ゆる麗城學生隊の奉迎提灯行列は、午後七時より行はれ、本校も館長を始め全職員生徒之に參加せり。



臨幸

十一月十七日、天朗かに氣澄み、祥氛校庭に滿つ。午前九時 陛下には畏くも行在所を發御先づ鹿兒島高等農林學校に行幸、次で照國神社に御親拜を終へさせられて、城山に御登臨、それより御下山の道を岩崎谷方面に取らせ給ひ愈、本校に向はせらる。

是よりさき、本校に於ては、午前七時三十分までに全職員登校し、同八時三十分までに全生徒を校内に收容し、職員生徒一同それぞれ部署につきて奉迎の備準を整ふ。館長は先づ奉呈すべき左記書類を、先著の宮内官に提出せり。

奏上書

一部（卷頭所載）

第七高等學校造士館概覽 一部

天覽品目錄並に概説 一部

造士館沿革概要

一部

單獨拜謁者名簿

二部

列立拜謁者名簿

二部

備考 奏上書及拜謁者名簿の用紙は西内、表紙平内。

奉呈書類はすべて縣廳の方にて之を消毒し、パラフィン紙にて包装す。

かくて奉迎の準備全く終るや、先著の松田文部大臣、河原普通學務局長及堀館長、職員代表久保田教授は玄關に向つて左側に、列立拜謁者二十五名は列立拜謁室に、天覽品係の五教授は天覽品室に、その他の職員生徒、職員家族は本校正門外石橋より武徳殿支部側に亘りて整列し、職員家族三十名の特別奉拜者は校内化學實驗室北側に整列し、恭しく陛下の著御を待ち奉る。午前十時三十五分 陛下には鈴木侍從長、本庄侍從武官長、湯淺宮内大臣その他の供奉員及數多の文武顯官を隨へさせられ、鹵簿肅々として著御あらせ給ふ。やがて御車より下り立たせ給へば、諸員恭しく最敬禮を以て迎へ



奉る。陛下には天機麗しく長くも御會釋を賜ひ、堀館長の御先導にて本館二階の御座所に入らせ給ふ。御少憩の後、直に左記二名に對して單獨拜謁を賜はる。

第七高等學校造士館長

從四位勳三等

堀 重 里

第七高等學校造士館教授

正四位勳三等

久保田温郎

次で堀館長は鞠躬如として御前に進み、左側に松田文部大臣、右側に鈴木侍從長、湯淺宮内大臣侍立のもとに、左記の如く本校の概要を奏上し奉る。

謹ミテ第七高等學校造士館ノ概要ヲ奏上申上ゲマス

本校ハ勅令ヲ以テ明治三十四年三月ニ創立セラレマシタモノデ御座イマスガ更ニ其ノ淵源ニ遡リマスレバ今ヲ距ルコト百六十二年安永二年ノ創立ニ係ル舊薩摩藩學造士館ト最モ深イ關係ヲ有スルモノデ御座イマスソレ故ニ今日ニオキマシテモ特ニ第七高等學校造士館ト申シマスノデ御座イマス

現在ノ職員ハ校長及教官四十四名事務員二十二名併セテ六十六名デ御座イマス

生徒ノ定員ハ五百四十名デ御座イマスガ時ニ増減ガ御座イマシテ現在ハ五百六十六名在籍致シテ居リマスソレヲ文科理科ニ分ケマシテ何レモ甲類二組乙類一組ト致シテ居リマスノデ三學年ヲ通ジテ全組數ハ十八ニナツテ居リマス

生徒ノ氣風ハ概シテ質實剛健デ御座イマシテ輕佻浮華ノ傾向ハ少イヤウニ存ゼラレマス土地柄デモ御座イマセウカ誠ニヨク上長ノ命ニ從ヒマス學校ノ空氣モ和氣藹々ト致シテ居リマシテ眞ニ教育上深イ味ヒノアル所ト存ジマシテ一層責任ノ重大ヲ感ジテ居リマス次第デ御座イマス

卒業生ハ本年三月第三十二回ヲ出シマシテ總數五千六百八十四名ニ上ツテ居リマス是等ハ大部分大學ヲ卒ヘマシテ國家樞要ノ地位ニ就イテ



居ルモノモ多數ニ御座イマス

本校ニオキマシテハ協力一致教育ニ關スル勅語ノ聖旨ヲ奉體致シマシテ眞ニ忠良ナル臣民トシテ造士ノ名ニ背カザルヤウニ努メテ居ルノデ御座イマスガ昭和三年十二月下シ賜ハリマシタル教學ノ御沙汰ヲ拜スルニ及ビマシテ夙夜淬礪益奮勵努力致シテ居ル次第デ御座イマス本日茲ニ無上ノ光榮ヲ仰ギ奉リマシテ職員生徒一同感激措ク所ヲ知リマセヌ今後ハ益々努力ヲ重ネマシテ此ノ洪大無邊ナル皇恩ノ萬一ニ報イ奉ランコトヲ期スル次第デ御座イマス

校務奏上終るや 陛下には館長の御先行、黒田侍従の御先導にて列立拜謁室に臨御、左の二十五名に對して拜謁を賜はる。

- 第七高等學校造士館教授 從四位勳四等 村上春太郎
- 全 正五位勳五等 川出麻須美
- 全 正五位勳五等 吉田 正通

- 全 正五位勳五等 橋本精次
- 全 正五位勳五等 吉利 純
- 第七高等學校造士館生徒主事 正五位勳六等 黒木長太郎
- 第七高等學校造士館教授 正五位勳五等 大久保靜平
- 全 正五位勳六等 石井清雄
- 全 正五位勳五等 飯島道脩
- 全 正五位勳六等 中島忠利
- 全 從五位 中村茂守
- 全 正六位 増井眞須夫
- 全 正六位 尾崎 忍
- 全 正六位 林 武雄
- 全 正六位 山口龍夫
- 全 從六位 佐伯延次郎



全	正七位	坂路壽郎
全	正七位	佐山榮太郎
全	正七位	上村行徳
全	正七位	牧祥三
全	從七位	八波直則
全	從七位	廣田榮太郎
全	從七位	大津有一
備外國人教師(奏任取扱)	瑞西人	アドルフ、エングラ―
全 (奏任取扱)	獨逸人	エルンスト、プツチエル

尙天覽品係日野、田森、阿多、松原、兒玉の五教授は天覽品室に於て、生徒係後藤教授は生徒と共に門前に於て、高田、池田の兩講師及特別奉拜者なる職員家族は所定の位置に於て奉拜せり。

かくて 陛下には再び堀館長の御先導にて階下に下らせ給ひ、天覽品室

に臨御、本校教授の研究成績品並に薩摩に關する文献を天覽あらせらる。その間、館長は謹みて御説明申上ぐれば 陛下には畏くも一々うなづかせ給ひ、二三の御下問をさへ賜ひしは、恐懼措く能はざりき。

天覽品目錄(概説省畧)

地質

霧島の火山列と温泉脈の研究 教授 阿多實雄

霧島實體模型地圖の位置を示す地圖一軸

霧島の火山列と温泉脈とを記入せる霧島山實體模型地圖一個

温泉の温度及湧出量を示す表

動物

ウシウマ(牛馬)に關する研究 教授 日野光次

外部形態の比較寫真三十枚

親仔間の形態の比較寫真二十一枚



『禿』型の季節的被毛状態の相違を示す寫真二十三枚  
體部の測定表

馬籍表

顯微鏡切片標本附寫真

『牛馬』に類似の現象に關する外國文獻の概要

化學

『オキナハケフチクタウ』の子葉中の毒成分に關する化學的研究

教授 松原多摩喜

一、『オキナハケフチクタウ』の野生状態並に花及核果の寫真二枚

二、『オキナハケフチクタウ』の腊葉一枚

三、核果のアルコール漬標本一壇

四、子葉のアルコール漬標本一壇

五、子葉中より分離せる油脂標本二壇

六、白色柱狀晶、白色針狀晶の顯微鏡寫真二枚並に標本二壇

七、心臟鼓動描寫機に依る寫真一枚

八、橙黄色無晶體の標本一壇

九、白色針狀晶顯微鏡寫真一葉並に標本一壇

十、『フェニルヒドラジン』との縮合體の顯微鏡寫真一枚並に標本一壇

十一、(九)の白色針狀晶の醋化物の顯微鏡寫真一枚並に標本一壇

薩摩に關係ある文獻

一、薩摩府學藏版本經書

山崎嘉點 四書集註 五冊 弘化二年刊

山崎嘉點 五經 十一冊 嘉永七年刊

中楷古文孝經 一冊 嘉永三年刊

岳家本春秋經傳集解 十六冊 安政五年刊

二、辭書類及其參考書



支那語辭書

南山俗語考

五冊 文化十年刊薩摩府學藏版

英和辭書

(參考辭書)

A New Pocket Dictionary of the English and Dutch Languages

by H. Picard 一冊 西曆一八四三年和蘭ザルトボンメル出版

英和對譯袖珍辭書 一冊 文久二年十一月江戸開版

改正增補英和對譯袖珍辭書 一冊 慶應二年正月江戸再版

改正增補英和對譯袖珍辭書 一冊 慶應三年江戸重刻

和譯英辭書 一冊 明治二年正月清國上海出版

大正增補和譯英辭林 一冊 明治四年十月上海出版

稟准和譯英和辭書 一冊 明治六年十二月東京出版

大正增補和譯英辭林 一冊 明治十八年東京出版

獨和辭書

(參考辭書)

和譯獨逸辭書 二冊 明治五年五月京都中學教官編

字和袖珍字書 一冊 明治五年八月東京學半社藏版

袖珍字語釋囊 一冊 明治五年九月長崎出藍齋藏版

和譯獨逸辭典 一冊 明治五年十一月東京春風社合著

官許獨和字典 一冊 明治六年五月清國上海出版

三、外國文化採擇に關する文獻

水蒸船說畧 第二、三卷第五、六卷 二冊

(參考書)

智環啓蒙塾課初步第一版一冊 西曆一八五六年(我安政三年)香港出版

同 第二版一冊 西曆一八六四年(我元治元年)香港出版

智環啓蒙 全 一冊 西曆一八七三年(我明治六年)



- 華英智環啓蒙新編 一冊 西曆一九一三年(我大正二年)上海出版
- 翻刻智環啓蒙 全 一冊 慶應二年江戸開物社翻刻
- 同 一冊 慶應三年江戸出版
- 智環啓蒙 全 一冊 明治三年鹿兒島藩藏版

(参考書)

智環啓蒙完

一冊 明治三年沼津學校藏版

啓蒙智慧之環

二冊 明治五年瓜生於菟子譯述

和蘭萬國公法

三冊 重野安釋譯述鹿兒島藩藏版

Geneeskundig Tijdschrift voor Nederlandsch Indië Deel VII

一冊 西曆一八五九年(我  
安政六年)バタヴィヤ發行

四薩英戦争の圖

The Japan Commercial News

附録一軸

西曆一八六三年八月二十六日  
(我文久三年七月十三日)發行

かくて天覽を終へさせらるゝや、再び館長の御先導により、化學實驗室北側に整列せる特別奉拜者の最敬禮に對して畏くも御會釋を賜ひ、運動場北側臺地に設けられし御野立所に臨御、御椅子に凭らせられ、ホツケー競技を天覽あらせらる。是より先、全校生徒は奉迎を終ふるや、直に南門より運動場に入りて、玉座前二十米の地點に、監督前田講師及競技者二十二名はその後方に整列す。又列立拜謁を賜はりし諸教授は賜謁終るや、急ぎ講堂裏を経て運動場に至り、生徒の右翼に整列し、同窓會員二十八名は早くより南方の定位に在りて、臨御を待ち奉れり。やがて臨御あらせらるゝや、體操教官の指揮によりて一同最敬禮をなし、終つて職員生徒は左右二隊に分れ、駢足にて後方に轉廻、玉座に向ひて整列す。扈從の供奉員及文武顯官は、玉座の兩側に侍立して陪觀せり。四邊寂として聲なく、唯競技者の入亂れし聲音と、ステイックの憂々たるを聞くのみ。その間、陛下には勇壯輕快なる競技に、忝くも御目を留めさせられしは畏き極みなりき。ついで館長奉唱臺



に上り、天皇陛下の萬歳を奉唱すれば、全員之に和す。陛下には一同の最敬禮に擧手の御答禮を賜ひて、徐ろに玉座を下らせ給ひ、久保田教授の御先行、宮内官の御先導によりて、講堂なる鹿兒島市天覽品室に向ひて玉歩を運ばせられ、岩元鹿兒島市長の御先導にて入御遊ばさる。やがて天覽を終へさせられ、畏くも天機ますます麗しく館長の御先導によりて、本館廊下より玄關に出でさせられ、松田文部大臣、河原普通學務局長、堀館長、久保田教授等の奉送裡に十一時三十分發御、鹵簿肅々縣廳に向はせ給ふ。他の職員生徒及同窓會員は競技終了後直に南門より出で、所定の奉送地點に至りて奉送せり。

### 御親閱

奉送終るや直に文理科二、三學年生三百八十六名は伊敷練兵場にて行はせらるる御親閱式場に向ふ。

文理科一學年生百七十六名は同拜觀の光榮に浴すべく、體操教官引率の下に出發す。館長代理川出教授及職員代表吉利、中島、増井、林の四教授は御親閱拜受の生徒部隊の先頭に立つべく、その他の職員二十餘名は陪觀の榮を受くべく、各自式場に向へり。

この日、御親閱の光榮を荷ふものは鹿兒島、長崎、福岡、熊本、沖繩、五縣の在郷軍人及各高等專門學校、各中等學校、各小學校生徒、兒童並に青年團、消防組、合員等合せて二萬八千有餘名なり。而して無慮十萬に近き陪觀者及團體拜觀者は式場の四周に堵を成して、靜かに臨御を待ち奉る。午後二時、陛下には『君ヶ代』の奏樂裡に著御、直に御野立所に立たせ給ひ、一同の最敬禮



に長くも擧手の御答禮を賜ふ。既にして分列式は始まり。第一集團在郷軍人部隊を先頭に、二萬八千有餘名の大部隊は順次歩武堂々御前を行進して御親閱を拜受す。我校三百八十有餘の生徒は第五集團高等専門學校生徒部隊に屬し、鈴木中佐監督、上田、中村二教官指揮の下に隊伍整然として行進し、よく平素訓練の實を發揮せり。かくて分列式終るや、前記五縣の女子中等學校生徒及女子青年團員合せて五千七百有餘名より成る奉唱部隊は、式場の中央に進み出で、軍樂隊の伴奏につれて奉迎歌を奉唱し、次で早川鹿兒島縣知事の發聲にて滿場一齊に天皇陛下の萬歲を三唱す。やがて『君ヶ代』の奉唱起り、午後二時四十分陛下には天機殊に麗しく發御、蒼生の感激に溢るる奉送裡に一路行在所に還御遊ばさる。

### 御 陪 食

十一月十七日夜堀館長は各方面の長官及各種功勞者三十五名の人々と

共に長くも行在所に召されて、御陪食の榮を賜はる。その際館長には御前に進み出で御禮の詞を言上せしに、ホッケー競技につきて、長くも御下問を賜はりしにより、謹みて二三奉答し恐懼感激して退出せり。

### 還 幸

十一月八日著御以來、麗宮兩縣下に御駐輦あらせ給ふこと十有一日、その間優渥なる天恩と無上の光榮とに浴して極みなき感激にひたりし兩縣下蒼生の盡きせぬ御名殘を後にして、十八日午前十一時行在所を發御、還幸の途に上らせ給ふ。本校に於ては午前八時職員生徒一同集合、著御奉迎の際と同一の場所に至りて聖駕を待ち奉る。午前十一時七分住吉棧橋に著御遊ばされ、文武顯官並に多數有資格者の奉送裡に御召艦『比叡』に御乗艦、殷々たる皇禮砲の萬歲の聲と共に轟くところ、靜かに御拔錨、還幸の途に上らせらる。時に午後零時十分なり。



還幸の御途次吾平山上陵に御親拜、更に志布志港外檳榔島に御上陸、生物學の御研究あらせられしと洩れ承る。かくて二十一日午前十一時東京驛に著御、御無事宮城に還御あらせ給ふ。

### 報賽式

十一月二十一日宮城著御の日なり。この日本校に於ては午前十時五十分職員生徒一同講堂に參集し、東京驛著御の午前十一時を期して、一同遙拜の式を行ふ。終つて館長は本校臨幸に關し一場の訓話をなし、御聖徳並に御陪食の際の御模様など感激に滿てる面持にて謹話せり。式後職員生徒一同に對して、御賜饌に召されし諸教授の拜受せる御紋菓を原料中に加へ之に準じて製したる菓子一折及造士館沿革概要一部を配布す。而して去る九月八日嚴修したる御安泰祈願の報賽式を行ふべく、館長、職員代表十名、生徒代表二十六名は同日午後一時出發、先づ霧島神宮に向ふ。午後二時四

十分神宮に到着し、祈願式に於けると同様に神前の儀を擧げ、無事還幸に對する感激の至誠をさしげ、茲に報賽の式を終了す。因つて一同鳥居前に於て記念の撮影をなし、午後五時鹿兒島神宮に到着し、前同様に報賽の式を行ひ、午後七時歸校せり。

### 御禮言上

十一月二十七日堀館長は御禮言上のため上京の途につき、二十九日午前宮中に參入、黒田侍從に因り謹みて臨幸の御禮を言上せり。

### 行幸記念誌終



昭和十年十一月 聖上陛下陸軍特別大演習を鹿兒島宮崎兩縣下に御統  
監の後地方行幸仰せ出され、畏くも同月十七日本校に臨幸を辱くし、予及教  
授賜謁の恩を荷ひ教授の學術研究と生徒の運動競技とに 天覽を賜はり、  
天覽品室に於ては『うしうま』に關して御下問あり、且つ伊敷練兵場に於  
て御親閱を拜受し、更に予は 行在所に召されて御陪食の恩を拜し、御禮言  
上の際本校のホッケー競技に關して再び御下問の光榮に浴し奉り感激の  
極に達せり。聖德洪大天恩優渥誠に恐懼措く所を知らず。

願ふに世界の情勢は日に益々複雑を極め前途容易に端倪すべからず。帝  
國の地位と使命とに想到するもの誰か一日の安を偷むを得んや。我等は  
深く此の千載一遇の光榮を感銘し、篤く獎學の聖旨を體し本校の歴史に鑑  
みて益々傳統の眞精神を發揮し、協力一致夙夜奮勵思想の中正學徳の向上眞  
に造士の名を辱しむることなく以て聖恩の萬一に報い奉らんことを期す  
ると共に、後人をして永く之を仰戴せしむる所無かるべからず。



茲に臨幸當日の光榮及其の前後に亘る概略を敘し題して行幸記念誌と  
曰ひ關係各員に頒つことと爲せり。印刷方に成るに及び謹みて一言を卷  
尾に書す。

昭和十一年二月

第七高等學校造士館長 堀 重 里

昭和十一年二月廿五日印刷  
昭和十一年三月五日發行

(非賣品)

第七高等學校造士館

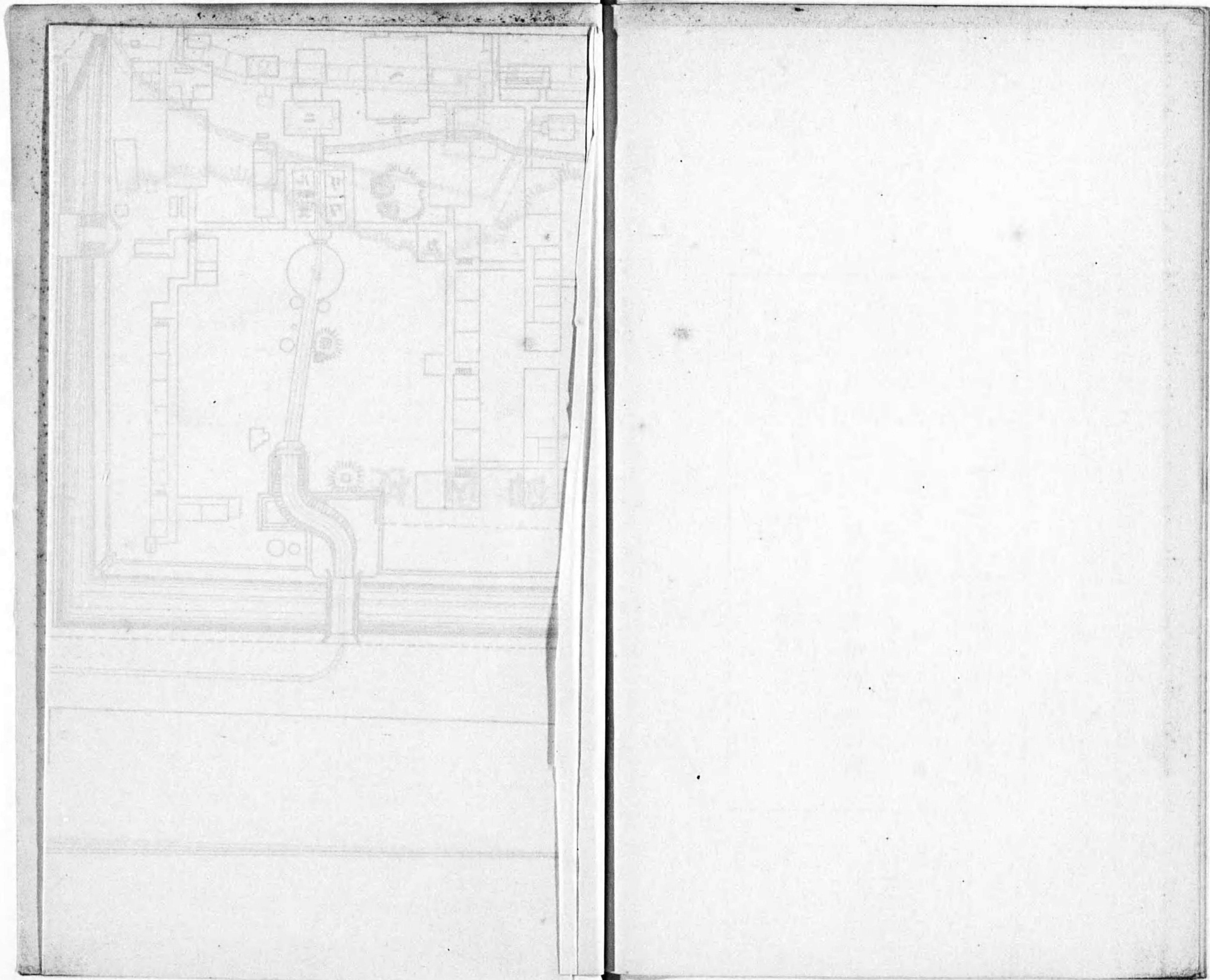
鹿兒島市上荒田町二〇七〇番地

印刷者 愛 甲 軍 藏

鹿兒島市山下町一番地

印刷所 鹿兒島縣教育會印刷部

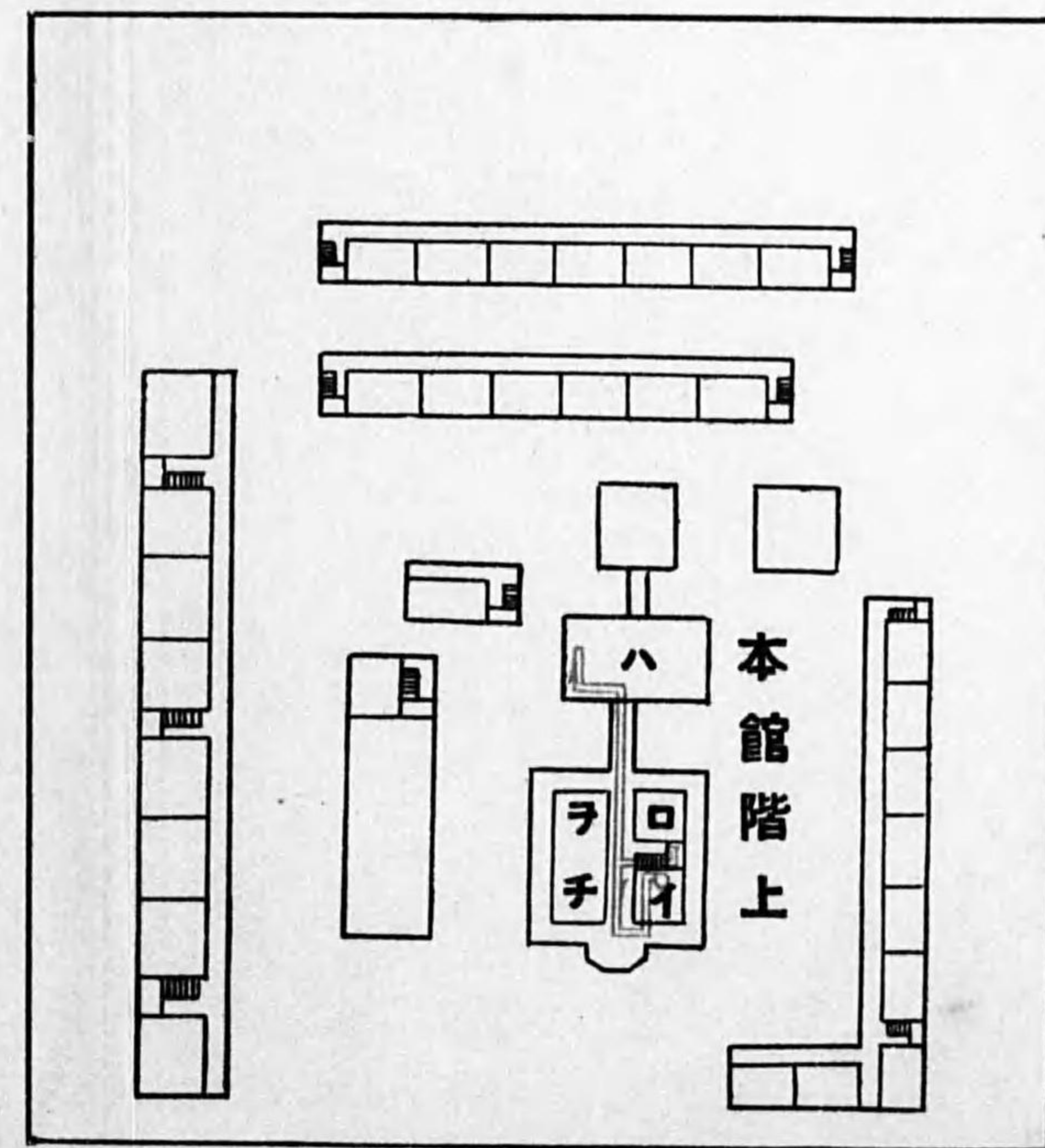
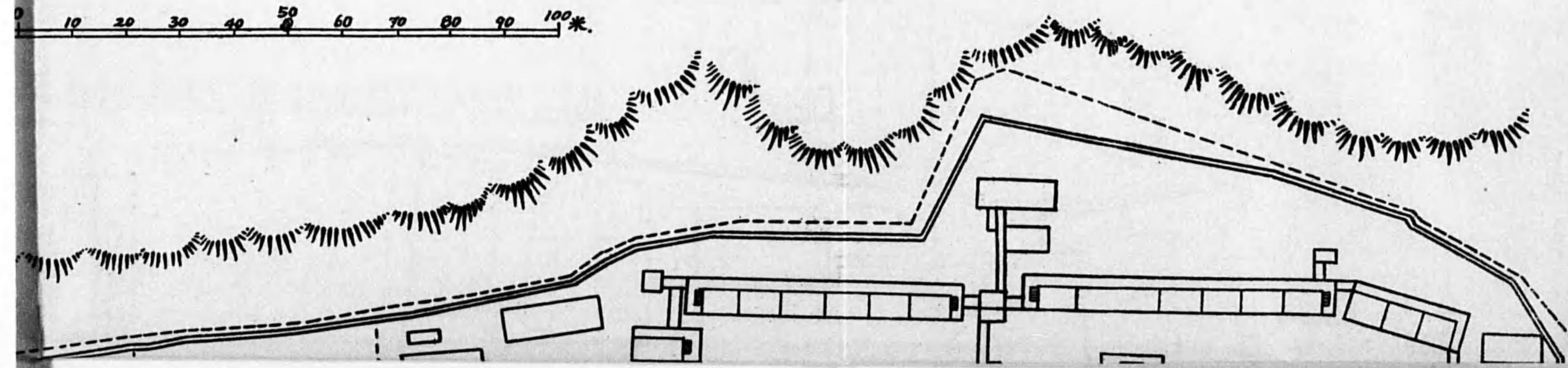






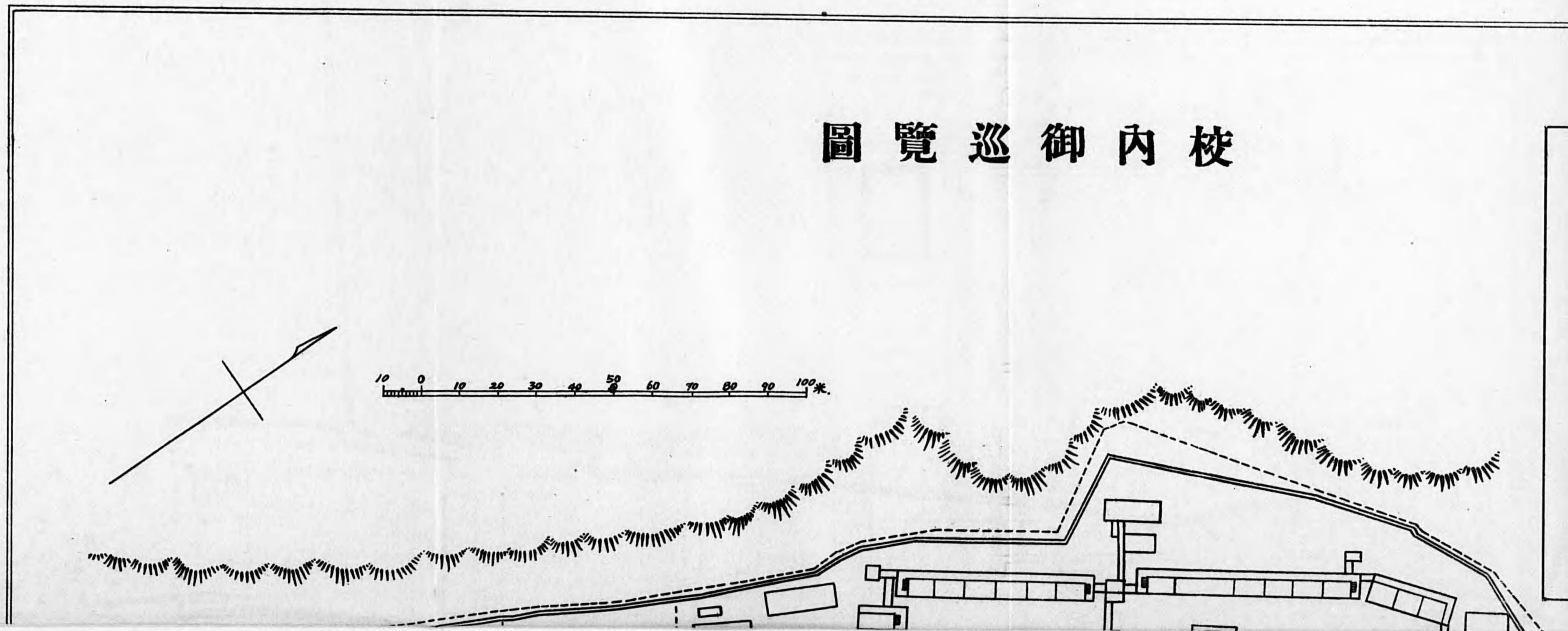
# 校內御巡覽圖

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100米

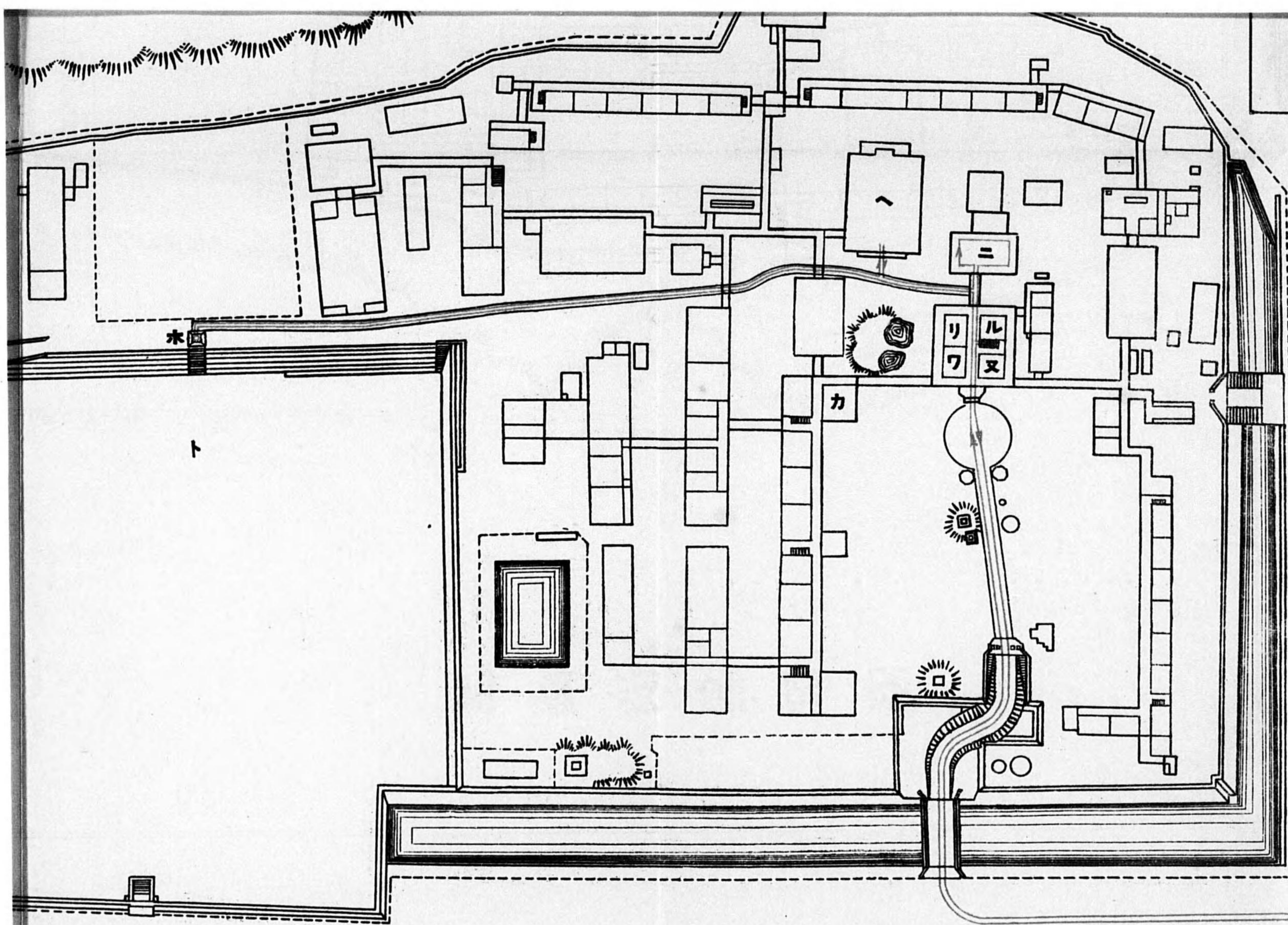




校內御巡覽圖

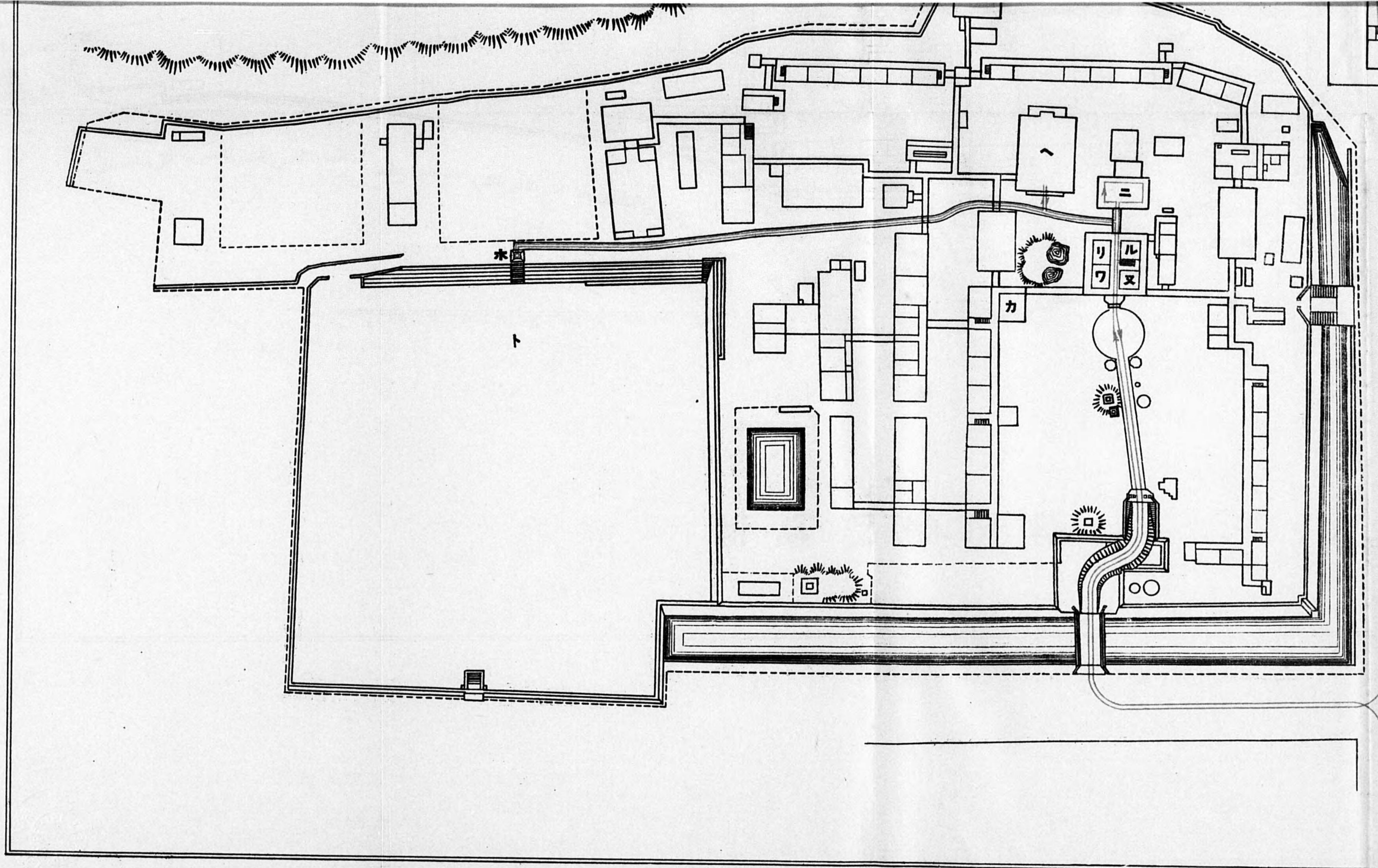




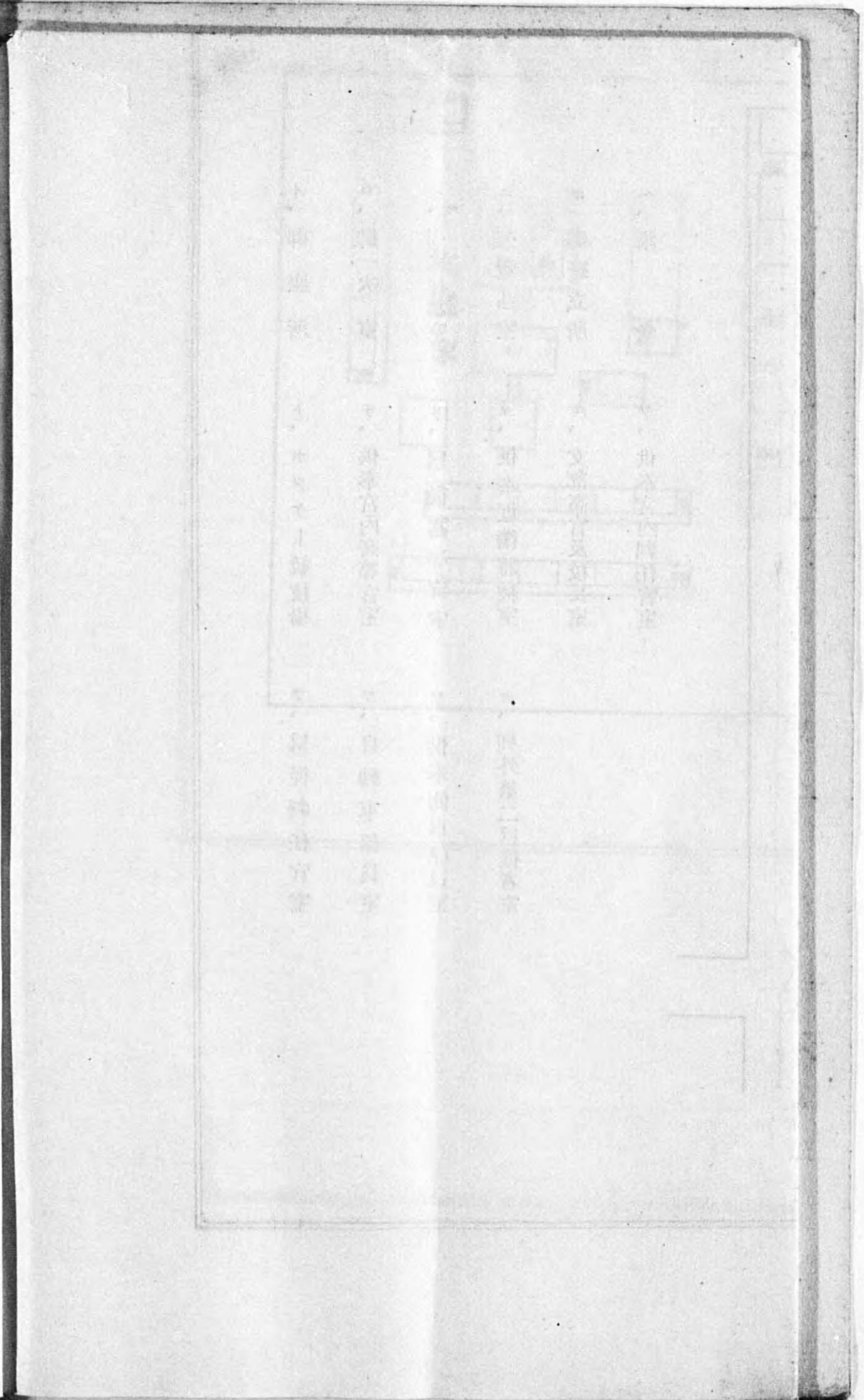
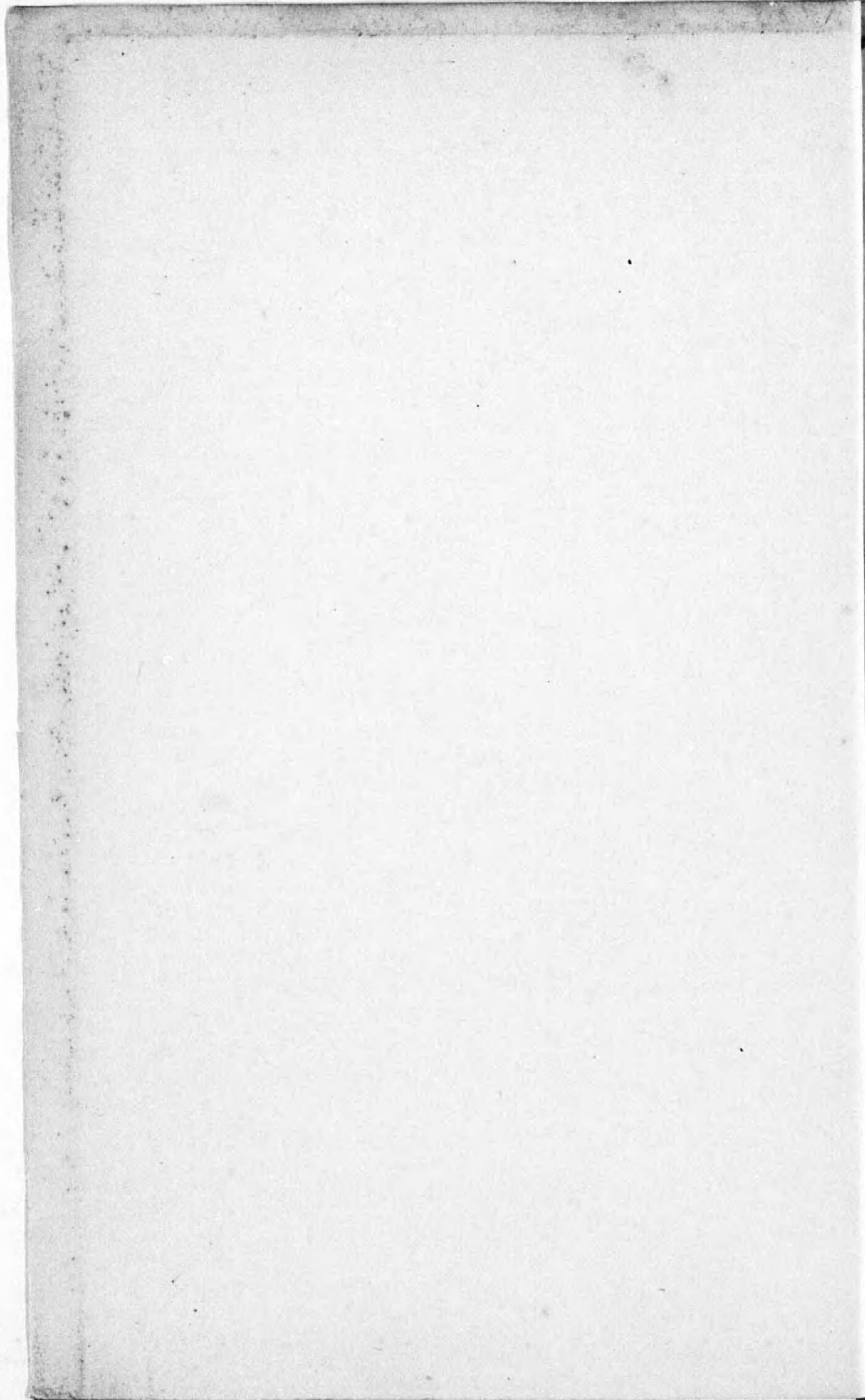


- イ、御座所
- ロ、御次室
- ハ、列立拜謁室
- ニ、天覧品室
- ホ、御野立所
- ヘ、講堂
- ト、ホツケー競技場
- チ、供奉宮内高等官室
- リ、扈從高等官室
- ヌ、供奉近衛將校室
- ル、文部高官及校長室
- ワ、扈從判任官室
- ヲ、自動車係員室
- ヰ、供奉側車係員室
- カ、列外第二扈從者室











283  
65



283  
65



終